

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書 (9)

過疎基幹農道整備事業（寺之門地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

寺之門遺跡

1998年3月

鹿児島県西之表市教育委員会

序 文

今回発掘調査報告書を刊行しました寺之門遺跡は、種子島西之表市に所在します。種子島は温暖な気候で、島の大部分が照葉樹林に囲まれ、昔より多くの人々が生活を営んできました。その結果多くの文化財が残され、埋蔵文化財については南種子町横峯遺跡・中種子町立切遺跡・西之表市奥ノ仁田遺跡など全国的に注目される遺跡が島内で相次ぎ発掘されています。

寺之門遺跡は過疎基幹農道整備事業に伴い、西之表市教育委員会が鹿児島県教育庁文化財課及び同県立埋蔵文化財センターの協力を得て平成7年に確認調査、平成9年に緊急発掘調査を実施した遺跡です。

調査の結果、縄文時代早期・後期の遺構、遺物が多数出土し、本書はこの発掘調査で得られた成果をまとめたものです。本書が西之表市民をはじめ多くの方に活用され、埋蔵文化財に対する关心と理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本書刊行まで、全面的にご支援いただいた鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターをはじめ、熊毛支庁土地改良課、国上校区、寺之門集落の方々など調査に際して多くのご理解とご協力をいただいた関係各位に厚くお礼を申し上げます。

平成10年3月
鹿児島県西之表市教育委員会
教育長 鎌田一正

報告書抄録

ふりがな	てらのかど いせき							
書名	寺之門遺跡							
副書名	過疎基幹農道整備事業（寺之門地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	9							
編集者名	沖田純一郎							
編集機関	西之表市教育委員会							
所在地	〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地							
発行年月日	1998年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
寺之門遺跡	鹿児島県	462136	83	30° 47' 45"	131° 2' 36"	確認調査 19950717 ~ 19950728 緊急調査 19970510 ~ 19970611	50m ² 150m ²	農道建設
	西之表市							
	国上							
	寺之門							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
寺之門遺跡	散布地	縄文時代早期 後期	土坑3基 溝状遺構 ビット	土器 (塞ノ神式) (指宿式) (市来式)他 石斧 磨石 敲石 軽石製品他				

例　言

1. 本書は、過疎基幹農道整備事業（寺之門地区）に伴う寺之門遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）の委託を受け、西之表市教育委員会が実施した。
3. 本書に用いたレベル数値は、鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）が作成した地形図に基づく海拔高である。
4. 本書の遺物番号は、全て通し番号で本文及び挿図・図版番号と一致する。
5. 発掘調査における測量・実測・写真撮影は沖田純一郎・鹿児島県立埋蔵文化財センター宮田栄二（平成7年度）・青崎和憲（平成9年度）が行った。
6. 本書の執筆と編集は沖田純一郎が行い、遺物の実測は60～67・71～73は鹿児島県立埋蔵文化財センター宮田栄二氏が行い、他は沖田純一郎、高橋恵子、中村桂子が行った。添書は73のみ宮田栄二氏が、他は沖田純一郎、高橋恵子、中村桂子が行った。
7. 写真図版の遺物撮影は沖田純一郎、種子島開発総合センター委託職員尾形之善氏が行った。
8. 発掘調査及び整理作業に関して、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・協力を得た。
9. 出土遺物は西之表市教育委員会で保管し、展示・活用する。

目 次

序文
報告書抄録
例言

第Ⅰ章 調査の経過	1	第3節 遺構	11
第1節 調査に至る経緯	1	第4節 出土遺物	16
第2節 調査の組織	1	(1) 確認調査出土遺物	16
第3節 確認調査	2	(2) 緊急発掘調査出土遺物	16
第4節 調査の経緯	2	①土器	16
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	4	②石器類	31
第1節 遺跡の位置と環境	4	第Ⅳ章 調査のまとめ	65
第Ⅲ章 発掘調査の概要	7	第1節 遺構	65
第1節 調査の概要	7	第2節 遺物	65
第2節 層位	7		

挿図目次

第1図 寺之門遺跡の位置	24	第17図 接合土器出土状況	24
第2図 寺之門遺跡と周辺遺跡図	5	第18図 底部出土状況	25
第3図 発掘調査地グリッド図	8	第19図 石器・軽石製品出土状況	26
第4図 土層断面図	9	第20図 出土土器	27
第5図 土層断面図	10	第21図 出土土器	28
第6図 1号土坑	12	第22図 出土土器	30
第7図 2号・3号土坑配置図	13	第23図 出土土器	32
第8図 2号・3号土坑	14	第24図 出土土器	33
第9図 溝状遺構・ピット配置図	15	第25図 出土土器	34
第10図 確認調査出土遺物	17	第26図 出土土器	35
第11図 確認調査出土遺物	18	第27図 出土土器	36
第12図 確認調査出土遺物	19	第28図 出土土器	37
第13図 確認調査出土遺物	20	第29図 出土土器	38
第14図 確認調査出土遺物・溝遺跡表探遺物	21	第30図 出土土器	39
第15図 遺物出土状況(1)	22	第31図 出土土器	40
第16図 遺物出土状況(2)	23	第32図 出土土器	41

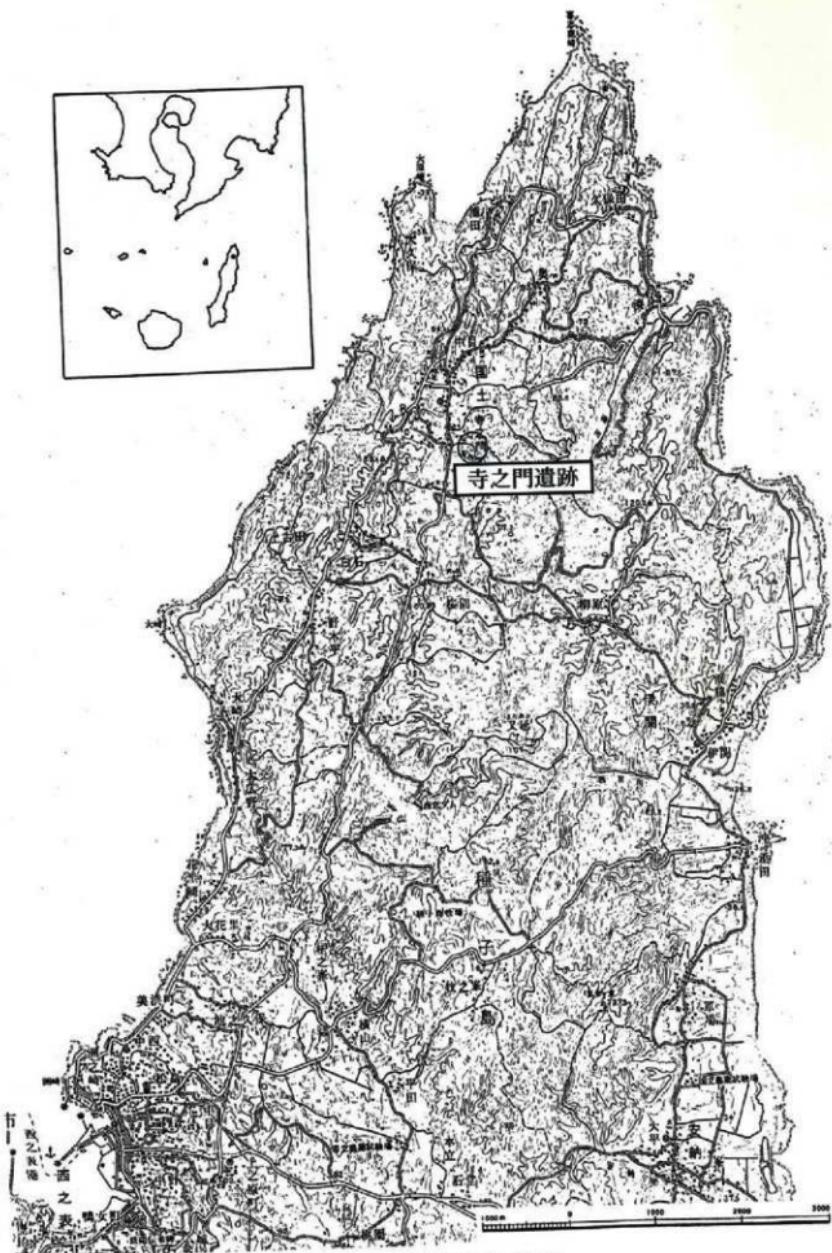
第33図 出土土器	42	第37図 出土土器	46
第34図 出土土器	43	第38図 出土土器	61
第35図 出土土器	44	第39図 出土土器	62
第36図 出土土器	45	第40図 出土土器・軽石製品	63

表目次

第1表 周辺遺跡地名表	6	第9表 土器観察表	54
第2表 土器観察表	47	第10表 土器観察表	55
第3表 土器観察表	48	第11表 土器観察表	56
第4表 土器観察表	49	第12表 土器観察表	57
第5表 土器観察表	50	第13表 土器観察表	58
第6表 土器観察表	51	第14表 土器観察表	59
第7表 土器観察表	52	第15表 土器観察表	60
第8表 土器観察表	53	第16表 石器観察表	64

写真図版

図版1 調査状況	67	図版12 出土遺物(3)	78
図版2 遺物出土状況	68	図版13 出土遺物(4)	79
図版3 調査状況	69	図版14 出土遺物(5)	80
図版4 確認調査出土遺物(1)	70	図版15 出土遺物(6)	81
図版5 確認調査出土遺物(2)	71	図版16 出土遺物(7)	82
図版6 確認調査出土遺物(3)	72	図版17 出土遺物(8)	83
図版7 確認調査出土遺物(4)	73	図版18 出土遺物(9)	84
図版8 確認調査出土遺物(5)	74	図版19 出土遺物(10)	85
図版9 確認調査出土遺物(6)	75	図版20 出土遺物(11)	86
渓遺跡表採遺物	75	図版21 出土遺物(12)	87
図版10 出土遺物(1)	76	図版22 発掘調査に携わった方々	88
図版11 出土遺物(2)	77		



第1図 寺之門遺跡の位置

第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

鹿児島県農政部農地建設課（熊毛支庁土地改良課・以下県農政部）は、西之表市国上寺之門地区において過疎基幹農道整備事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下県文化財課）に照会した。

これを受けて、県文化財課と西之表市教育委員会種子島開発総合センター（現文化課、以下市文化課）が平成5年4月に埋蔵文化財分布調査を実施したところ、事業区内に遺物散布地として寺之門遺跡が所在することが判明した。この分布調査の結果をもとに県農政部、県文化財課、市文化課は、埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るために協議を行った結果、事業着手前に埋蔵文化財確認調査（以下確認調査）を実施することとなった。

確認調査は調査主体である西之表市教育委員会が鹿児島県立埋蔵文化財センターの協力を得て平成7年7月17日から7月28日まで実施した。調査の結果、工事対象地内において約150m²にわたり縄文時代早期・後期の遺物包含層が確認された。

遺跡の取り扱いについて、県農政部・県文化財課・市文化課が調査結果をもとに再度協議を行い、事業遂行上遺跡の現状保存は困難という判断がなされ、平成9年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存を図ることとなった。

緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、鹿児島県立埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。

第2節 調査の組織

発掘調査主体者 西之表市教育委員会

発掘調査責任者 西之表市教育委員会 教育長 鎌田 一正

発掘調査企画担当 西之表市教育委員会 文化課 課長 鮫嶋 安豊
" " 主査 奥村 学

確認調査担当 西之表市教育委員会 文化課 主事 沖田純一郎
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事 宮田 栄二

緊急発掘調査担当 西之表市教育委員会 文化課 主事 沖田純一郎
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事 青崎 和恵

緊急発掘調査作業員 長田実廣・日高正治・上山登・中野孝久・落合三郎・中村恵子・山崎ノリ子・山崎ヤス子・榎本シズ・曾木ナミエ・上山英子・中野みゆき
中野恭子・河内ミチ・宮原フク・日高幸美・柳野ムツ子・落合リエ子
落合淑子・落合三千代・高橋恵子・中村桂子

整理作業員 高橋恵子・中村桂子

第3節 確認調査

確認調査は平成7年7月17日から28日にかけて、10日間実施した。調査対象地の現況は畑地と農道であった。2m×4mを基準に5ヶ所トレンチを畑地内に設置した。また土層確認のためミニトレンチ(50cm×50cm)を西側畑地内に4ヶ所設置した。

調査の結果、1トレンチから縄文時代後期の遺物が出土し、4トレンチから縄文時代早期の遺物、遺構が検出され、遺物包含層の存在が認められた。2・3・5トレンチは搅乱、削平を受けており、遺物・遺構は検出されなかった。

1トレンチは遺物の出土量が膨大であったため、調査期間の都合上トレンチを4分の1にカットして調査を進めた。農道の通行に支障があるため1トレンチに接する農道面を調査することはできなかつたが、遺物包含層は残存することが予想された。また旧地形は南側に急傾斜していたと思われ、そのため遺物包含層も相当な厚さであると思われる。

4トレンチからは縄文時代早期の遺物や石皿を埋設した土坑が検出された。しかし、遺物包含層は一部削平を受けており、包含層の厚さは薄いことが確認された。4トレンチに接する農道面下位には調査の結果、遺物包含層は残存していなかった。

第4節 調査の経過

寺之門遺跡の緊急発掘調査は平成9年5月19日から6月11日にかけて16日間実施した。以下、調査の経過については調査日誌より抄述する。

「緊急発掘調査」

5月19日(月)	午前中、雨天のため作業中止。重機で表土除去作業を行う。午後より作業開始、グリッド杭設置。A・B・C区掘り下げ作業。農水土木課長来跡。
5月20日(火)	A～E区掘り下げ。溝状遺構、ピット検出する。土器・石器出土。種子島開発総合センター運営委員来跡。
5月21日(水)	A～E区、平板・レベル遺物取上げ。 掘り下げ作業。溝状遺構・ピット実測作業。 重機にて1区～M区表土除去作業。

5月22日(木)	溝状遺構、ピット実測作業。平板・レベル遺物取上げ。I区～M区掘り下げ作業。
5月23日(金)	A～E区清掃、写真撮影。I区～M区掘り下げ作業。土器・石器類多数出土する。土層断面図作成。
5月26日(月)	J～L区掘り下げ。縄文後期の遺物多数出土。平板・レベル遺物取上げ作業。
5月27日(火)	J～L区掘り下げ。平板・レベル遺物取上げ作業。遺物出土状況写真撮影。土坑検出、掘り下げ、写真撮影。II区重機により拡張する。国上中学校校長来跡。
5月28日(水)	J～M区掘り下げ。土坑実測。平板・レベル遺物取上げ。国上中学校生徒10名発掘体験学習のため来跡。
5月29日(木)	J～M区掘り下げ。平板・レベル遺物取上げ。雨天のため、午後2時で作業終了する。
5月30日(金)	J～M区掘り下げ。平板・レベル遺物取上げ。土坑検出掘り下げ作業。写真撮影。
6月2日(月)	L～M区掘り下げ。平板・レベル遺物取上げ。土坑検出掘り下げ作業。土坑実測作業開始。雨天のため作業午前中で終了する。
6月3日(火)	雨天のため作業中止する。
6月4日(水)	土坑実測作業。K～L区掘り下げ。平板・レベル遺物取上げ。I区掘り下げ作業開始。西之表市長来跡。
6月5日(木)	J～M区、平板・レベル遺物取上げ。農道面グリッド杭設置。掘り下げ作業。土坑実測作業。
6月6日(金)	L～M～4区掘り下げ作業。遺物出土状況写真撮影、平板・レベル遺物取上げ。土坑内遺物取上げ。実測作業。
6月9日(月)	I～M～4区掘り下げ作業。平板・レベル遺物取上げ。土層断面図作成。西之表市教育委員会教育長・教育委員会総務課長・学校教育課長・生涯学習課長来跡。
6月10日(火)	L～M～4区掘り下げ。平板・レベル遺物取上げ。写真撮影。調査道具後片付け。調査終了。
6月11日(水)	調査地重機にて埋め戻し作業実施。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と環境

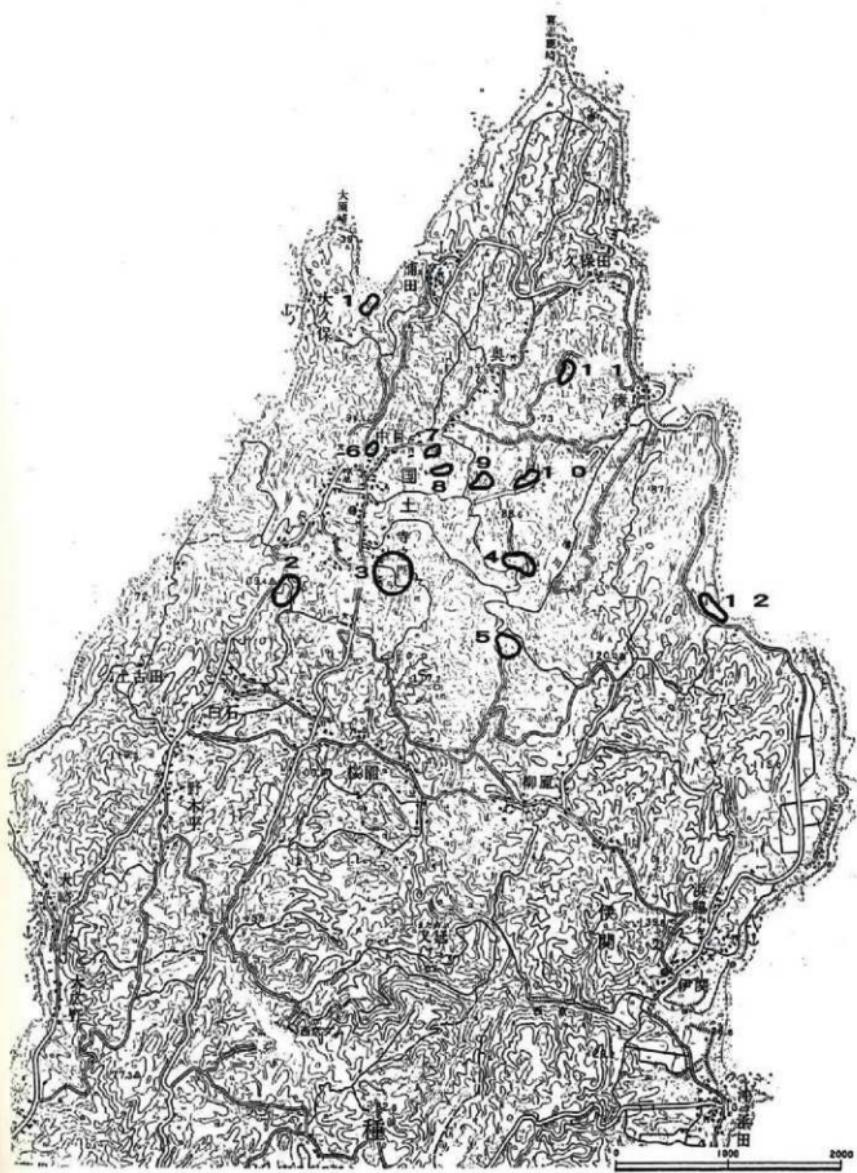
種子島は本土最南端の佐多岬から大隅海峡を隔てた、東南約40kmの海上にあり、南北52km、東西12kmの北北東から南南西に細長く伸びた、最高標高でも282.3mしかない低平な細長い島で、西方に位置する屋久島とは対照的である。地形は全体にわたり台地上や浜堤上に砂丘が発達し、7～8段の段丘面の発達が見られ、中央に走る山稜の西側は砂丘が発達し、東側では断崖に富んでいる。また、島の北部は丘陵状の小起伏が中央部を南北に走り、島の山稜を形成している。南側では台地上をなして海岸段丘が広く発達している。基盤となる層は熊毛層群と呼ばれる第三紀に堆積した砂岩、頁岩の互層で、その上を砂岩やシルト岩からなる基永層群、礫層や砂層などの増田層や長谷層、竹之川層などが不整合に覆い、さらにその上に何枚にも及ぶ火山灰起源のローム層が堆積している。海岸部には比較的砂丘が発達しているが、東海岸は断崖に富んでいる。行政区は北から西之表市・中種子町・南種子町と1市2町からなる。

寺之門遺跡は西之表市の北部国上寺之門地区に所在する。遺跡は国上地区のほぼ中央部標高76mに位置する。今回調査を行ったのは寺之門遺跡の範囲のうち、過疎基幹農道工事区域にかかる部分である。遺跡内には大山祇神を祭神とする寺之門神社がある。境内には集石の一部が確認でき、参道にも土器片を採集することができる。また、この周辺には島分寺、国府が所在した場所であるとの説もあり、興味深い場所である。周辺には遺跡の数は少ないが、今後増加していくことが十分考えられる。1996年には国上湊遺跡において、種子島で初めて細石核が表面採集され種子島も細石器文化圏に入ることが確認された。

各時期の遺跡を島内で概括してみると、旧石器時代の中種子町坂井「立切遺跡」(国内最古級の生活跡や種子島初の細石刃文化層が確認された)、南種子町島間「横峯C遺跡」(種子島初の旧石器時代の遺跡であり、約3万年前の縄群が検出された)、縄文時代草創期の西之表市立山「奥ノ仁田遺跡」(種子島で初の草創期の遺跡)、中種子町「三角山遺跡」(多量の隆帶文土器・石器が出土)、南種子町「横峯D遺跡」(隆帶文土器が出土)等最近の発掘調査によって種子島は旧石器時代から縄文時代草創期にかけて充実した遺跡が相次いで発見され、全国的にも注目されはじめた。今後の調査によってこの時期の遺跡が増加する可能性は大いに考えられる。

縄文時代早期の遺跡は発掘例や表掲資料も多数報告されている。土器は吉田式段階以降のものがほとんどで、前平式の出土例はこれまでのところ報告されていない。下剥峯式(タイプ)、桑ノ丸式・押形文土器・手向山式・苦浜式などの出土例が報告されている。前期の土器型式は轟式、曾畠式土器の出土が報告されている。中期の様相は資料が乏しく遺跡の数も皆無に等しいため、現段階ではほとんど不明である。後期の土器型式としては、指宿式、一湊式、市来式、西平式、納曾式、御領式等の出土が報告されている。晚期の土器では南種子町の一陣長崎鼻貝塚で黒川式土器が報告されている。

弥生・古墳時代の遺跡は縄文時代の遺跡と比較すると数は極端に少なく、西之表市「泉原遺跡」、「横峯遺跡」、「上能野貝塚」、「嶽ノ中野遺跡」、中種子町「輪之尾遺跡」、「阿嶽洞穴」、南種子町「本村丸田遺跡」等がある。またこの時期の埋葬遺跡が島内の海岸沿い砂丘上に分布し、西之表市「沖ヶ浜田遺跡」、「伊闇小浜遺跡」、「田ノ脇遺跡」、「上浅川遺跡」、中種子町「鳥ノ峯遺跡」、南種



第2図 寺之門遺跡と周辺遺跡図

子町「広田遺跡」などがある。

古墳時代以降の様相については、各種の文献で垣間見ることができるが、発掘調査例は少なく未解明な点が多いのが現状である。

第1表 周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	小浜貝塚	西之表市国上浦田	縄文～中世	平成8年詳細分布調査
2	国見岳	西之表市国上中目	弥生	
3	寺之門	西之表市国上寺之門	縄文早期・後期	本報告書
4	太田I	西之表市国上寺之門	縄文・古代	
5	太田II	西之表市国上寺之門	縄文・古代	
6	稻村	西之表市国上中目	縄文	
7	稻庭	西之表市国上中目	縄文	
8	平庭A	西之表市国上中目	古墳	
9	平庭B	西之表市国上中目	縄文	
10	高峯	西之表市国上中目	縄文	
11	湊	西之表市国上湊	旧石器	
12	小浜	西之表市伊闇柳原	古墳	平成9年発掘調査 小浜遺跡 調査団（学術発掘）

第III章 発掘調査の概要

第1節 調査の概要

緊急発掘調査は平成9年5月19日から6月11日まで実施した。工事用の道路センター杭を基準にして5m×5mのグリッドを調査対象地に設置し、北から南へA区～M区とし、西から東へ向かって1区～7区とした。

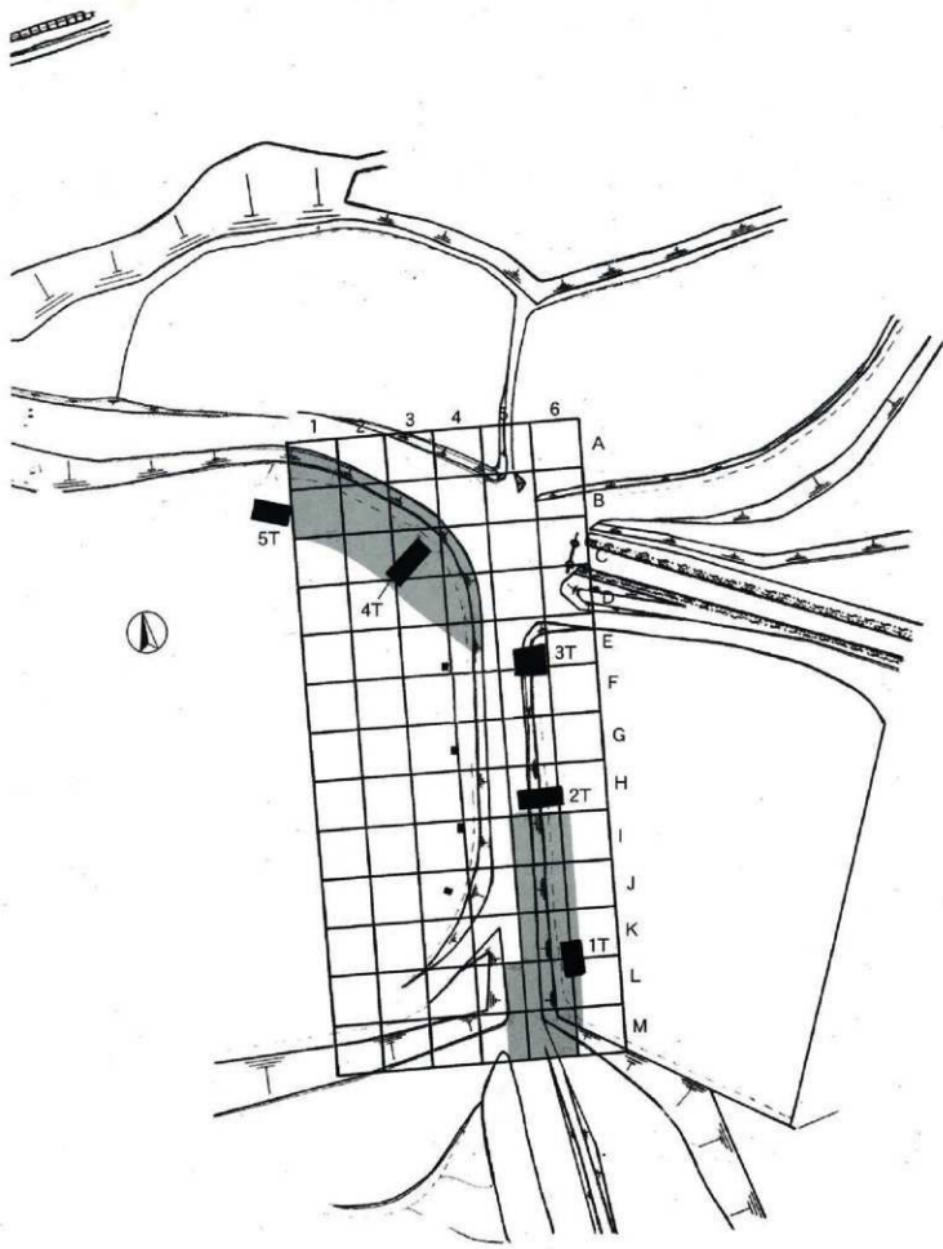
確認調査時の4トレンチ周辺部分、A～E区の表土を重機で除去後、人力で掘り下げながら調査を進めていった。この地区のII層・III層は削平によりほとんどが滅失していた。IV層から縄文時代早期の遺物が出土したが、IV層も一部削平を受けており、遺物の出土量は少なかった。

確認調査時の1トレンチ周辺部分の調査は表土を重機で除去後、II層以下を人力で掘り下げ調査を進めた。この地区の土層の堆積は良好であり、また旧地形が南側に向かって傾斜していたことが判明し、そのため南側にいくにつれ遺物包含層が厚く堆積し、遺物の出土量も多かった。農道部分については、調査の状況から遺物包含が残存する部分のみ調査を実施した。調査面積は150m²である。

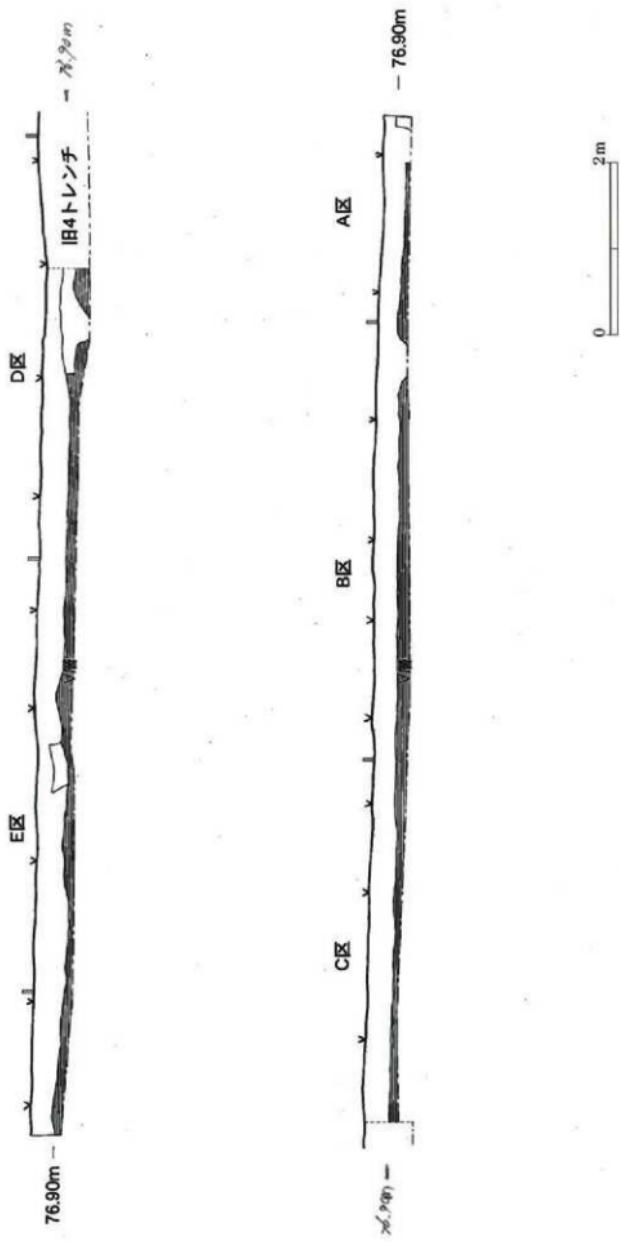
第2節 層位

土層は場所によって一部の層が欠落している部分もあるが、基本的には下記のとおりである。

I層	表土	暗褐色土。場所によって表土、耕作土、客土と3層に分層できる
II層	黒褐色土	一部搅乱を受け、古代～中世の遺物が散在する
III層	暗茶褐色土	やや軟質である。縄文時代後期包含層
IV層	黄橙色火山灰層	アカホヤ火山灰層。鬼界カルデラの噴出物(約6,400年前)
V層	淡赤褐色土	縄文時代早期包含層
VI層	暗褐色粘質土	粘質が強い
VII層	黄褐色ローム層	姶良カルデラを噴出源とするAT火山灰に該当する
VIII層	淡茶褐色ローム土	粘質土。部分的に一部粘質が非常に強くなる
IX層	黄褐色ローム土	上部は軟質、下部は色調が若干暗く粘質が非常に強い

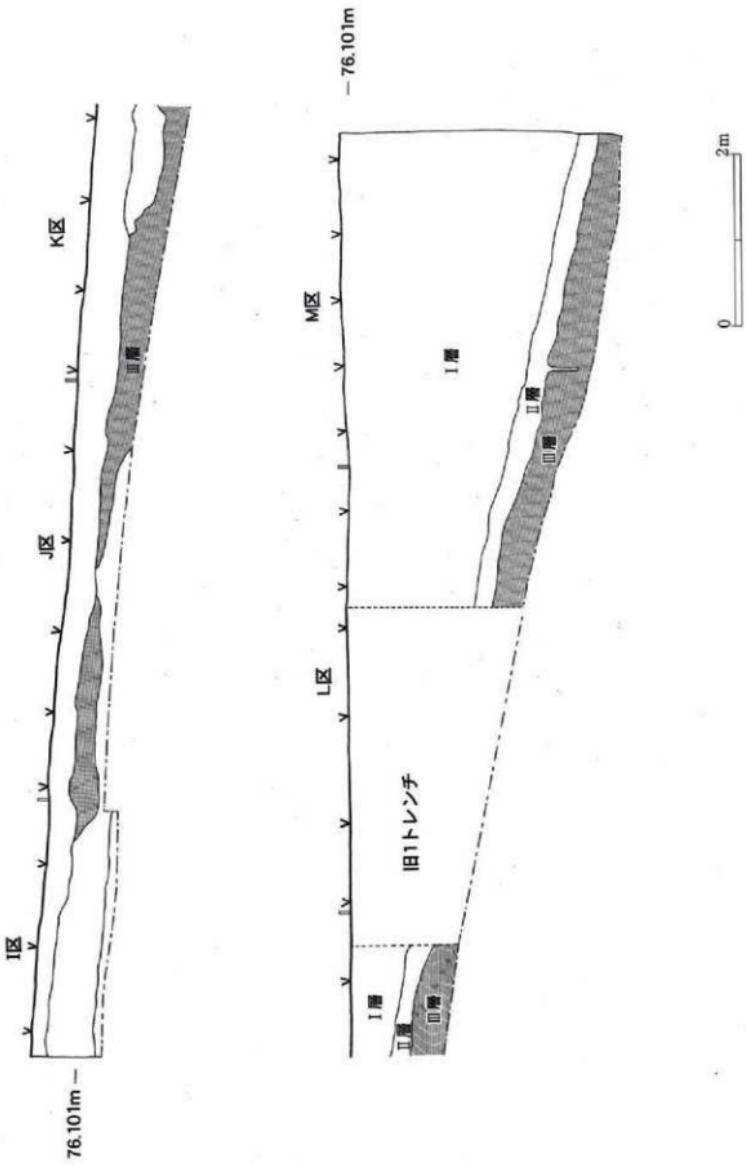


第3図 発掘調査地グリッド図



第4図 土層断面図

第5図 土層断面図



X層	橙色硬化火山灰	砂質であるが硬く縮まっている。中に黒いゴマ塙状のものが混入し、種I・II火山灰に相当する。
II層	暗灰褐色ローム土	粘質が強く、硬く縮まっている。
III層	基盤層	砂岩から構成される基盤層

IV層のアカホヤ火山灰は縄文時代早期と前期を分ける鍵層として重要な層である。今回の調査ではアカホヤ火山灰は削平により一部滅失している場所もあった。特にA区からE区においてはアカホヤ火山灰の下部がかろうじて残存する程度であった。

X層の橙色硬化火山灰は種I・II火山灰と呼ばれるもので約4万5千年前と想定され、火山灰の噴出源は断定できないが指宿火山群の説がある。本来種I火山灰・種II火山灰と分層するべきだが本遺跡では明確に分層できず、種I・IIとした。

種子島の標準土層は種I、種II火山灰の上部に種III・種IV火山灰がローム層を挟んで堆積する。種III火山灰は約3万8千年前、種IV火山灰は約3万年前と言われ、噴出源は鬼界カルデラと推定されている。種IV～種I火山灰は現在のところ、種子島のみに見られる火山灰である。

また、種子島でも中種子町・南種子町では種IV、種III火山灰は明確に確認できるが、西之表市では確認することは難しいのが現状である。逆に種I・種II火山灰は西之表市では明確に確認されるが、中種子町・南種子町ではそれほど顕著に確認できないという傾向が今のところ見られる。

いずれにしても、この種IV～種I火山灰は種子島の旧石器時代を探る鍵層となる重要な火山灰である。

第3節 遺構

遺構はV層、III層、II層からそれぞれ土坑が各1基ずつ、合計3基検出された。また、II層面から溝状遺構、ピットが検出された。

1号土坑（第6図）

平成7年度の確認調査時に、第4トレンチV層上面で石皿を埋納した土坑が検出され、検出した層位から縄文時代早期のものと思われる。検出面からの土坑の深さは約20cmで平面プランは長径70cm、短径60cmである。底面は平坦であるが立ち上がりは丸みを帯びるものと思われる。本来の大きさは100cm以上×80cm以上の大きさであったと思われる。土坑内からは石皿（第14図72）、土器片（第13図60）が出土した。石皿は二つに割れた状態で、割れ口を逆にした状態での出土であった。上面が使用のため窪んでおり、光沢がある。接合した大きさは約40cm×約42cmで重さは23.8kgである。

2号土坑（第8図）

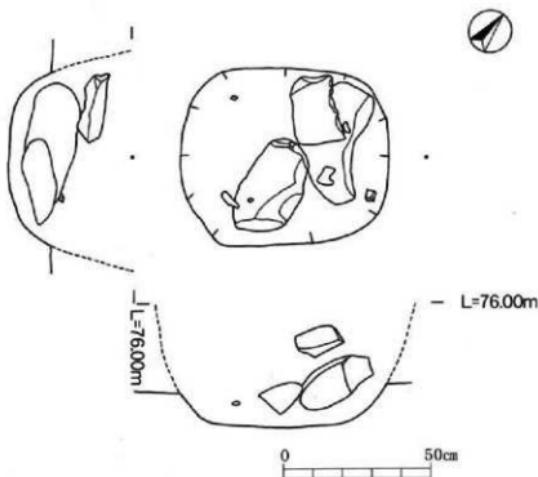
L-5区傾斜地面で、第III層面から検出された。平面プランは85cm×80cmで楕円形を呈する。検出面からの深さは25cmであった。内部からは土器片や炭化物が検出された。土器（第37図369）は底部を欠くものの、ほぼ1個体分であり口縁部を東側に向け横倒しになった状態であった。埋土は茶褐色で特に中心部はフカフカしており、柔らかい。検出面及び出土した土器から縄文時代後期のものであると考えられる。

3号土坑（第8図）

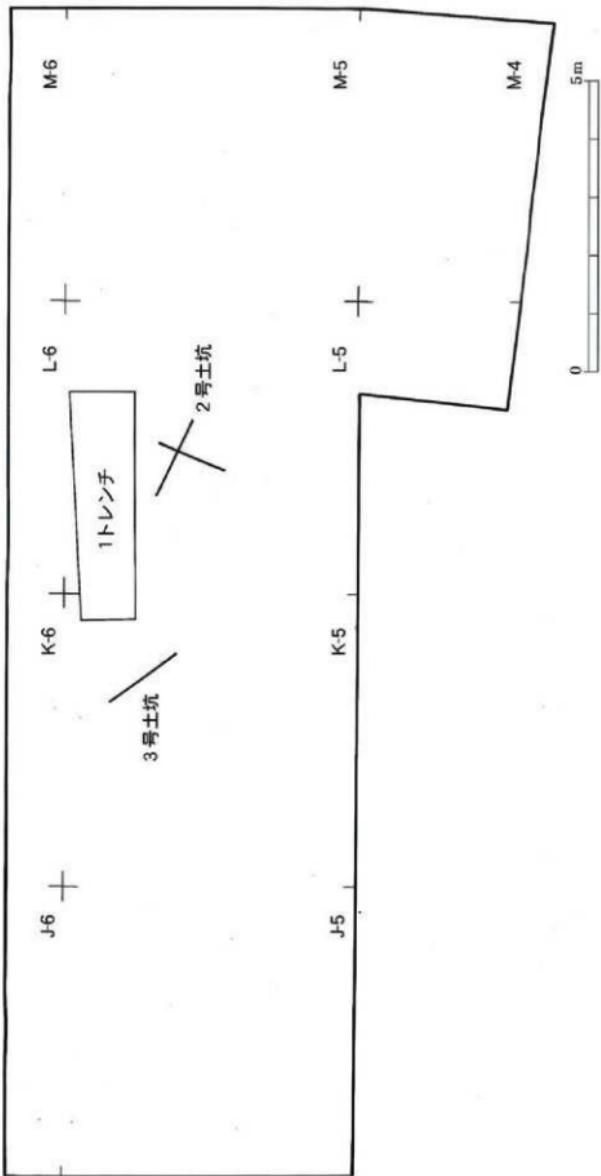
K-5区、第II層面で検出された。平面プランは120cm×100cmの大きさでほぼ円形になる。検出面からの深さは55cmであり、底面は平坦である。掘り込み壁の立ち上がりはかなり傾斜する。内部からは須恵器片1点、蔽石1点、礫5点が出土した。検出層位及び出土物から中世頃の土坑と思われる。

溝状遺構・ピット（第9図）

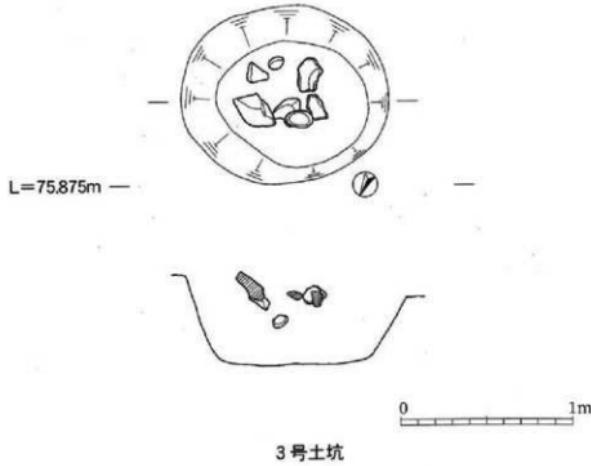
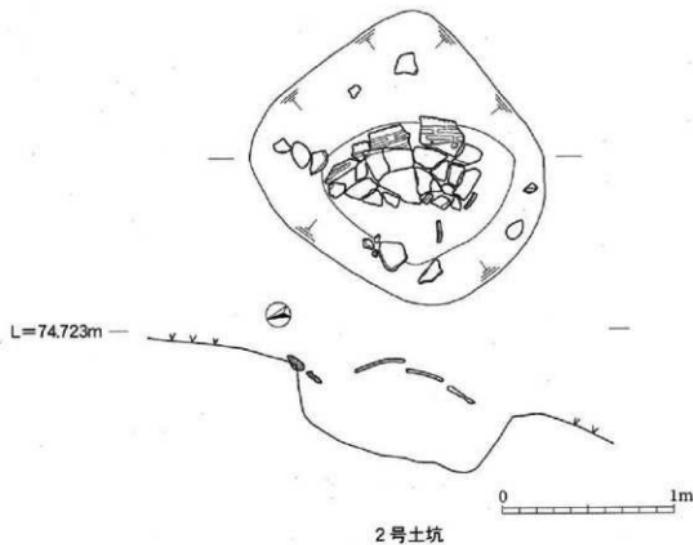
A・B-1・2区、第II層面より15基のピットと溝状遺構が検出された。ピットは最大のもので直径60cmから最小のもので15cmの大きさであり、検出面からの深さは11cm～50cmであった。溝状遺構は長さ約7mに及び若干曲線を描き、ピットの東側に位置する。ピット及び溝状遺構ともに埋土から遺物は出土しなかった。検出面周辺は一部、削平・攪乱を受けており、出土遺物もなかつたため、これらの遺構の時期や性格は不明である。



第6図 1号土坑

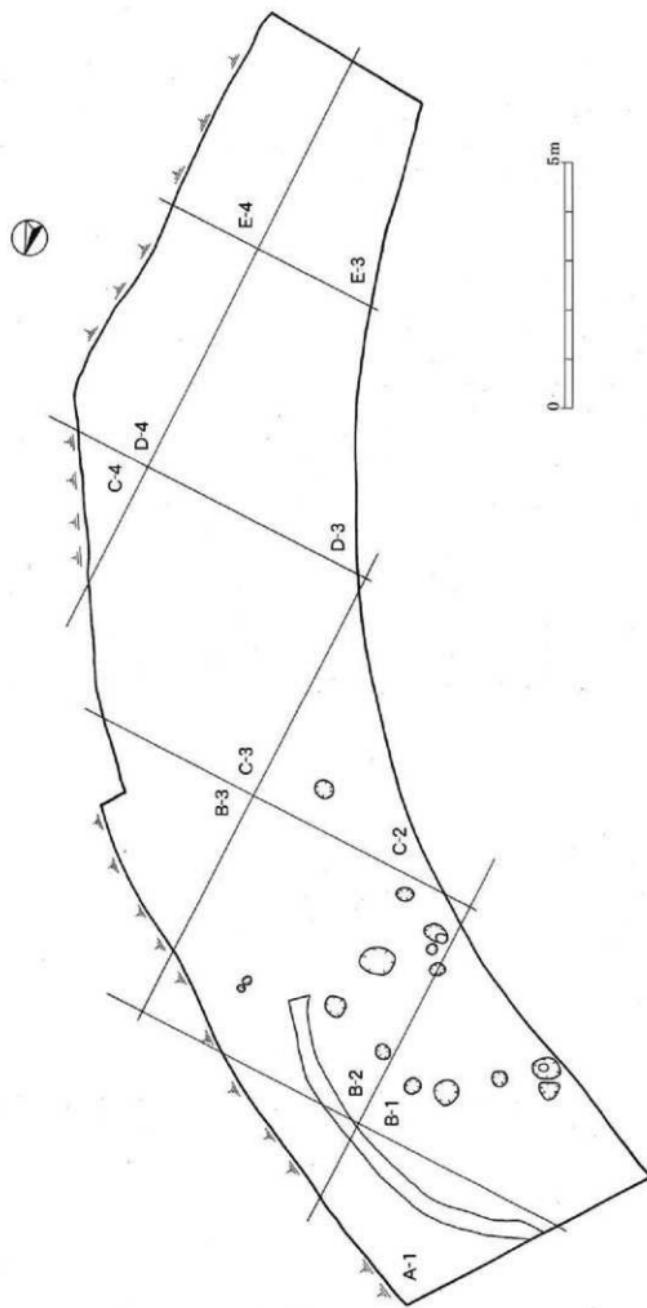


第7図 2号・3号土坑配置図



第8図 2号・3号土坑

第9図 溝状造構・ピット配置図



第4節 出土遺物

遺物はⅡ層、Ⅲ層、Ⅴ層より出土した。ただし、Ⅱ層は一部搅乱・削平を受けていた。出土遺物の主体を占めるのは第Ⅲ層より出土したものである。

(1) 確認調査出土遺物（第10～14図1～72）

平成7年度の確認調査で出土した遺物である。1～56は縄文時代後期のものであり、57～59は撲糸文を施す土器で、縄文時代早期のものである。60は1号土坑内より出土した土器で、口縁部付近に僅かであるが、ススが付着していた。貼付突帯が右下がりに螺旋状に施され、突帯には刺突文が見られるが右下がりになっていく過程で次第に文様は崩れていき、はつきりしなくなる。口唇部にも同じような刺突が見られるが、大きさは小さい。61～72は石器類であり、72は1号土坑内より出土したものである。

73は西之表市国上「湊遺跡」で表面採集された細石刃核の作業面再生剥片である。湊遺跡は寺之門遺跡の北北東に位置する。細石刃文化に相当する遺物の発見は、種子島において初めてのことであったため、今回本報告書に記載した。遺物の実測・トレースは鹿児島県立埋蔵文化財センター宮田栄二氏が行い、以下の遺物の所見も宮田氏によるものである。

これは、細石刃核の作業面再生剥片である。正面には5条の細石刃を剥離した面が見られ、離面は1回の加撃で剥離されている。作業面再生は正面（作業面）から見て、やや左側の打面からの一撃で行われている。

残存する打面には打面調整が行われていない点と、打面ではなく作業面を再生していることより、本体は船野型細石刃核と考えられる。使用されている石材は流紋岩で、一部に光沢のある自然面が残る。

本資料は熊毛諸島初の旧石器時代細石刃文化に属するものである。

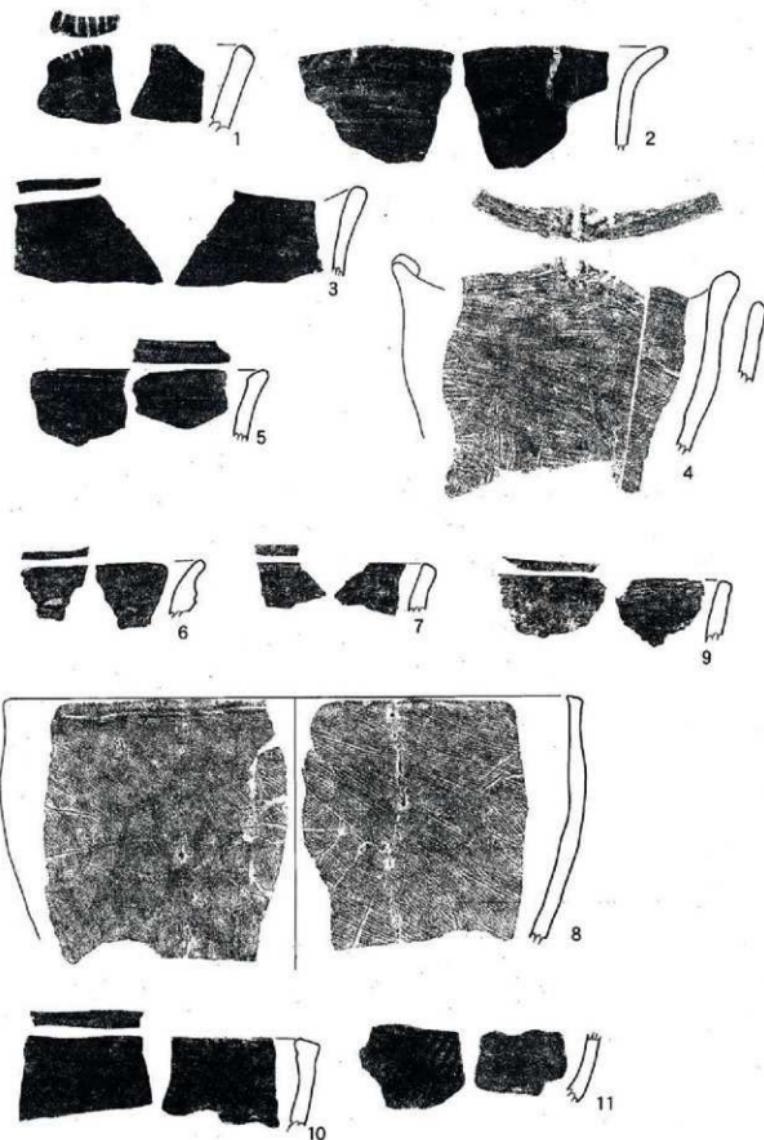
(2) 緊急発掘調査出土遺物

①土器

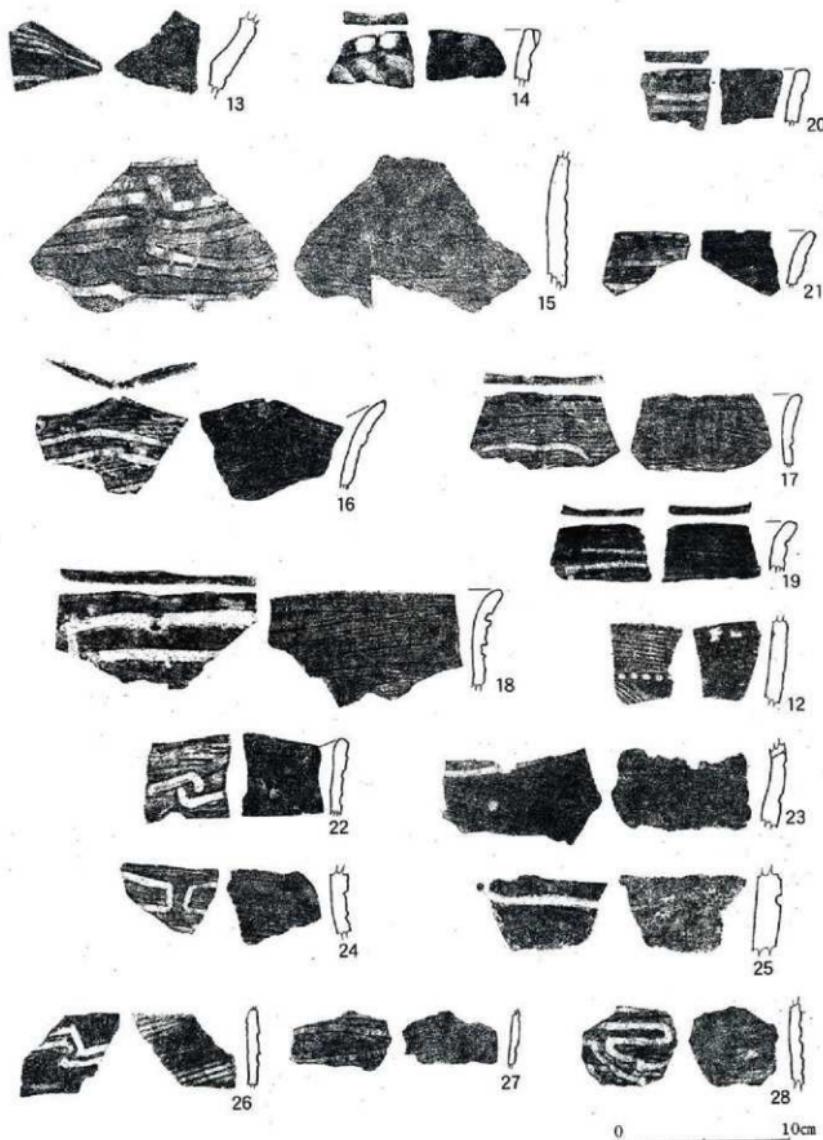
土器は縄文時代早期及び後期のものである。出土する層位は早期が第Ⅴ層、後期がⅢ層である。土器は7つの類と底部片に分類し、2号土坑内出土遺物は末尾に掲載した。

1類土器（第20図74～87）

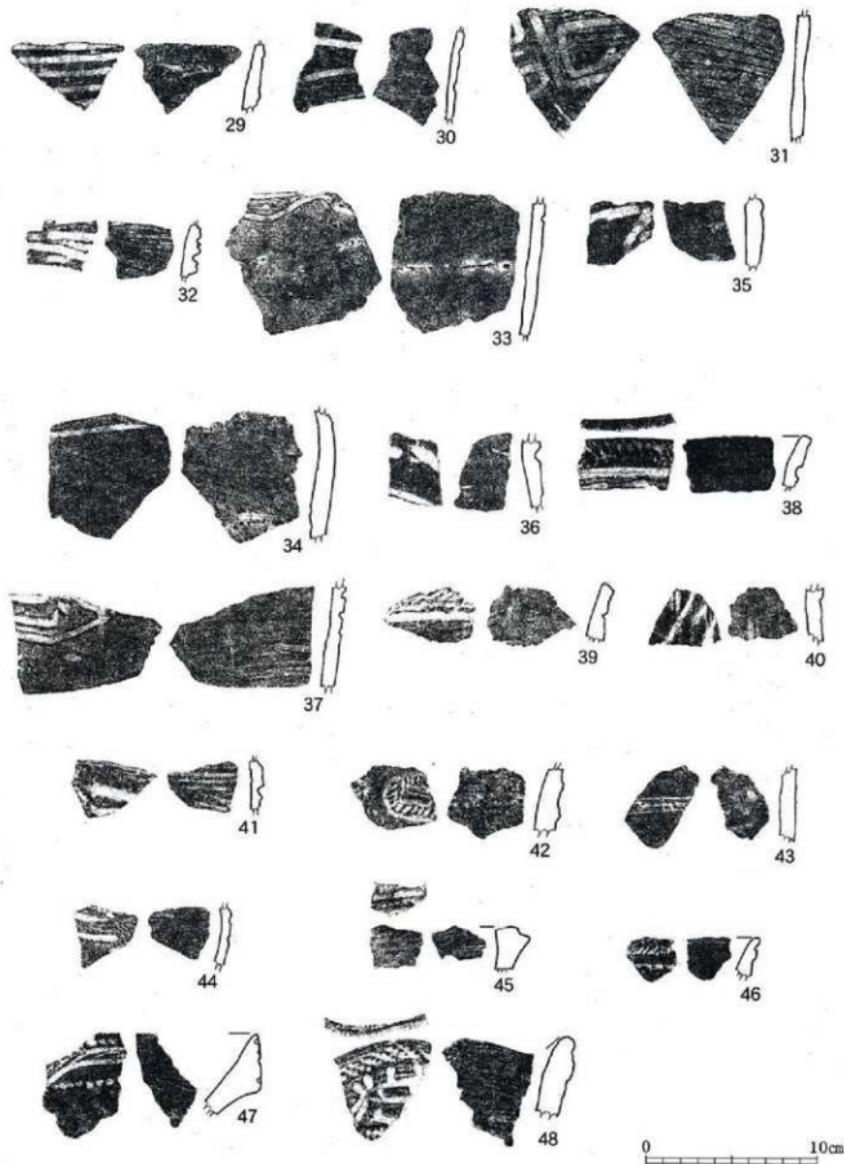
口縁部がラッパ状に外反する土器で、区画内に撲糸文を施す土器である。後述する2類土器以下とは分布を異なる。74・75・77は口縁部片である。74は、外反するが、途中でわずかに立ち上がる特徴がある。口唇部と口縁下部にはキザミ目が施される。口縁部の上端には刺突文が2条施されている。



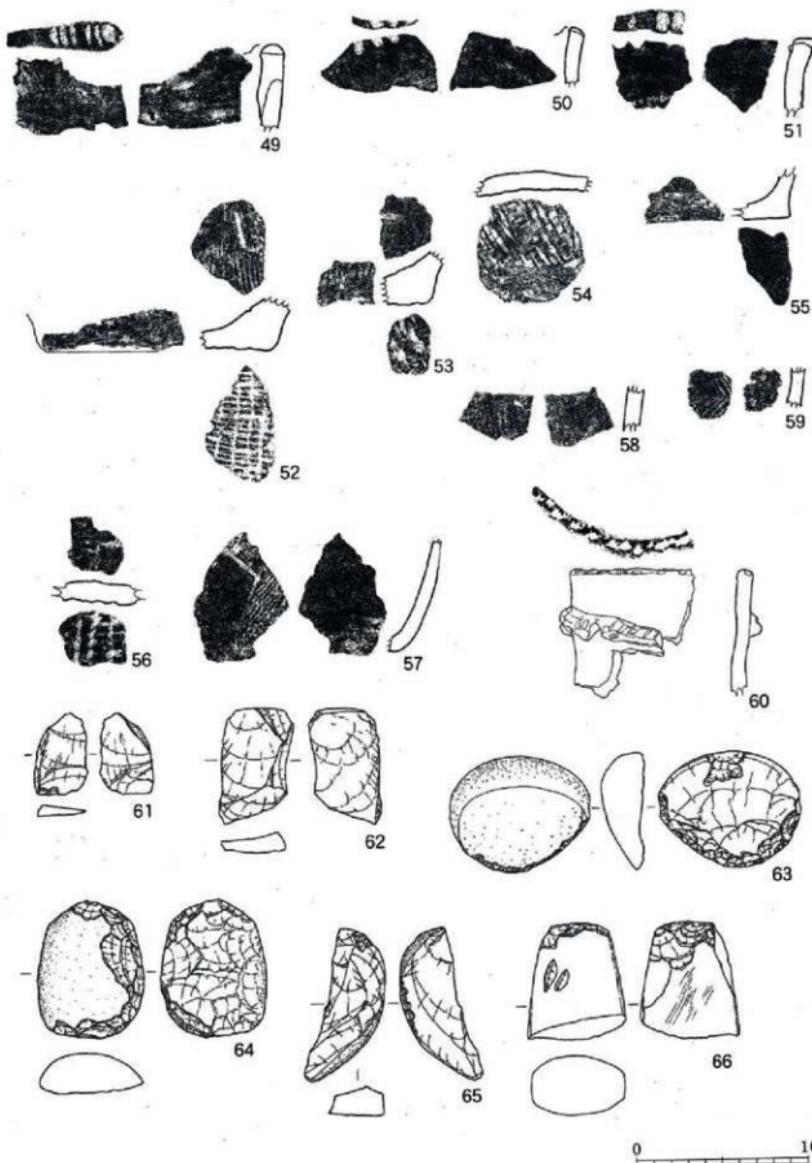
第10図 確認調査出土遺物



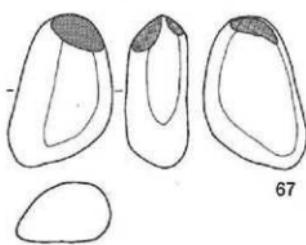
第11図 確認調査出土遺物



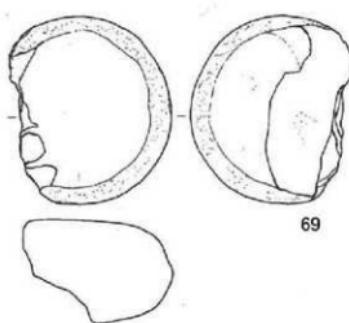
第12図 確認調査出土遺物



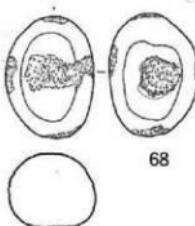
第13図 確認調査出土遺物



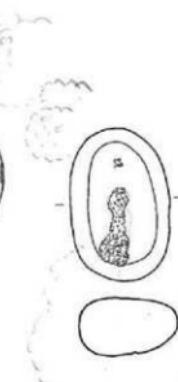
67



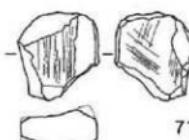
69



68

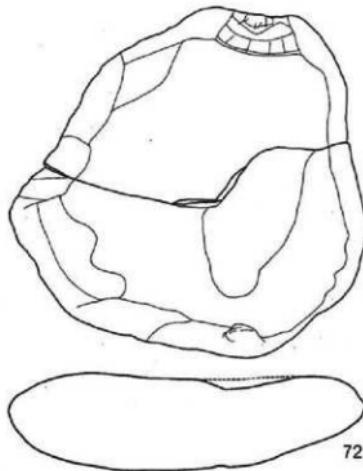


70

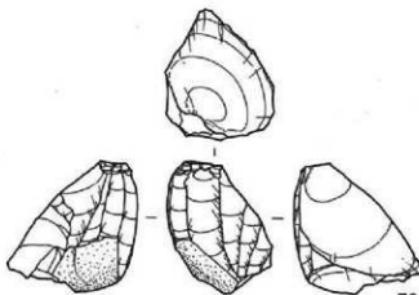


71

0 10cm



72



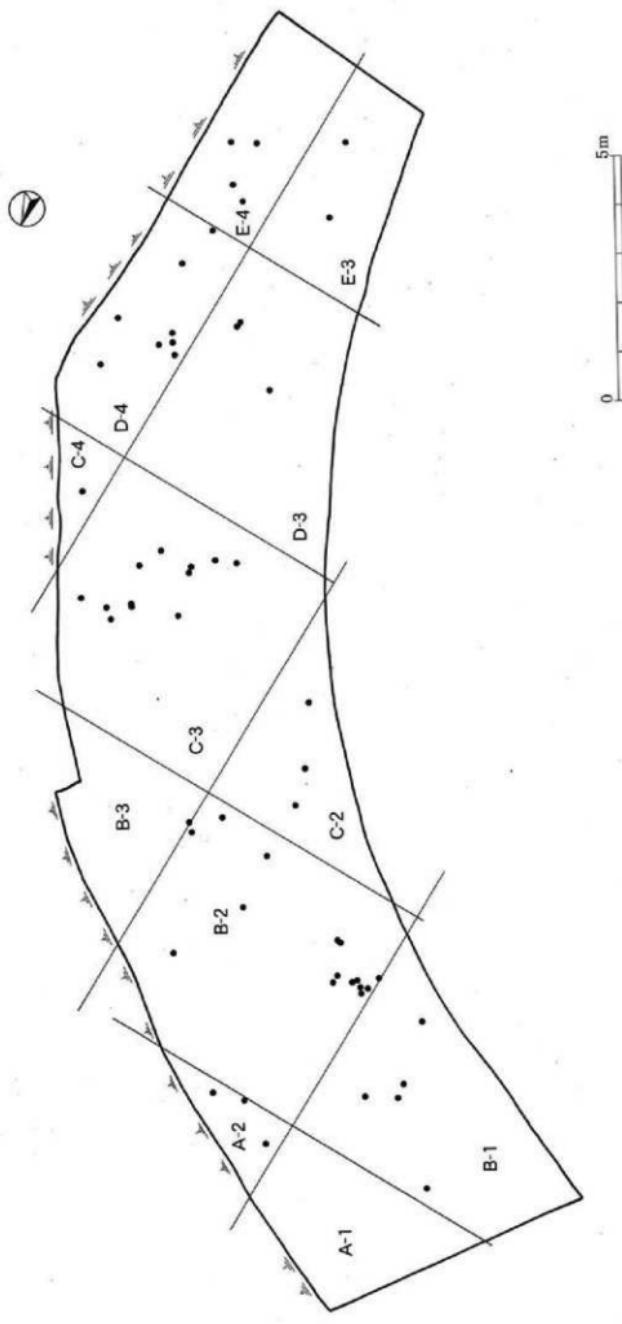
73

0 5cm

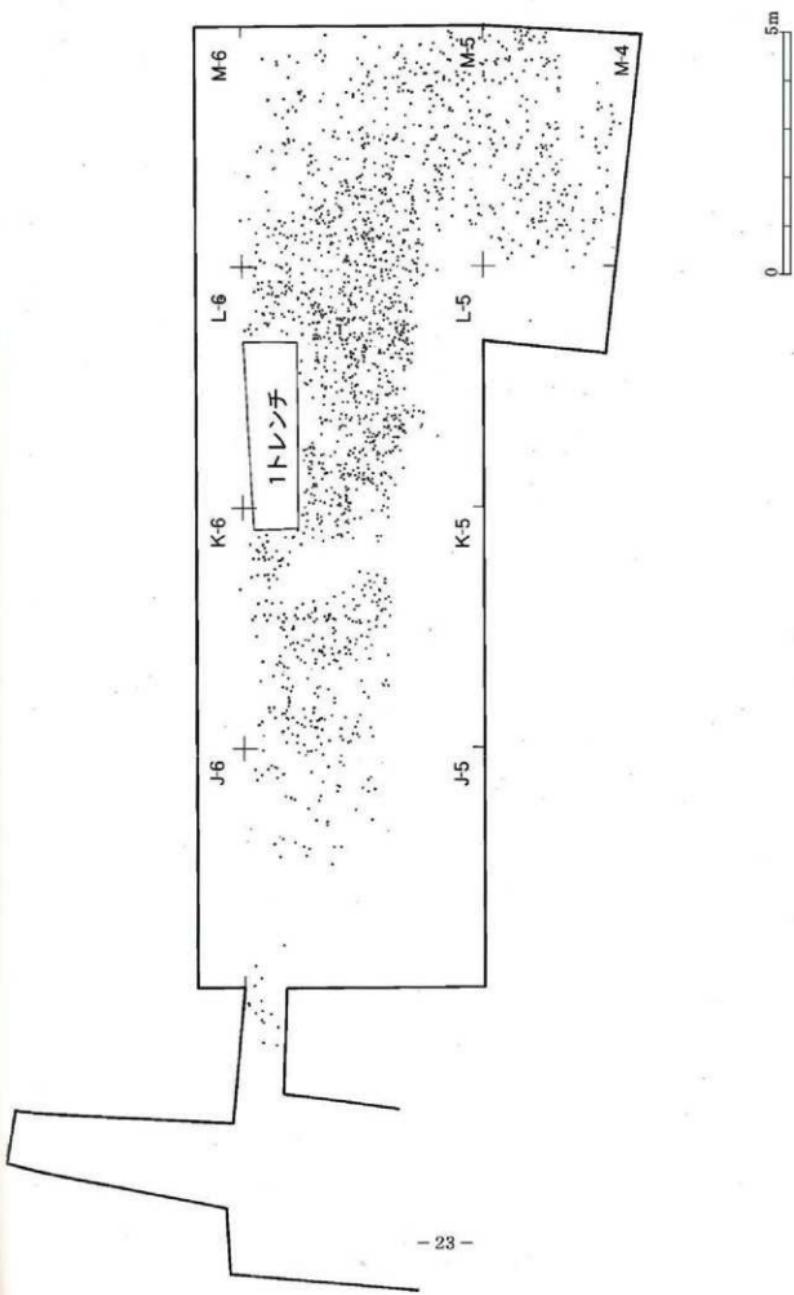
0 20cm

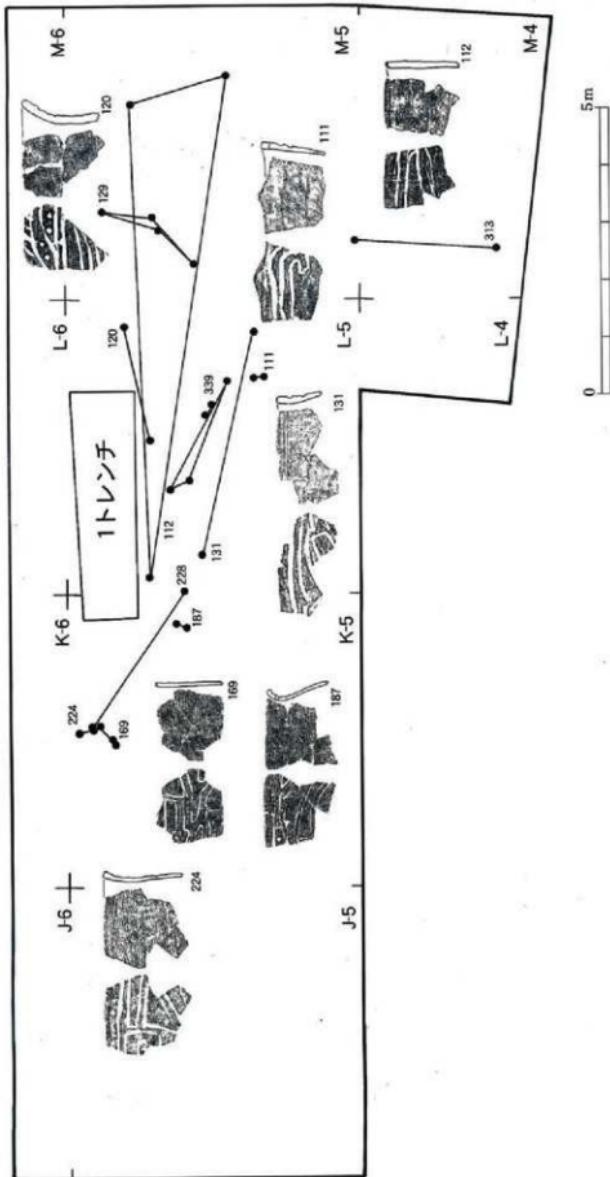
第14図 確認調査出土遺物・湊跡表探遺物

第15圖 遺物出土狀況（1）

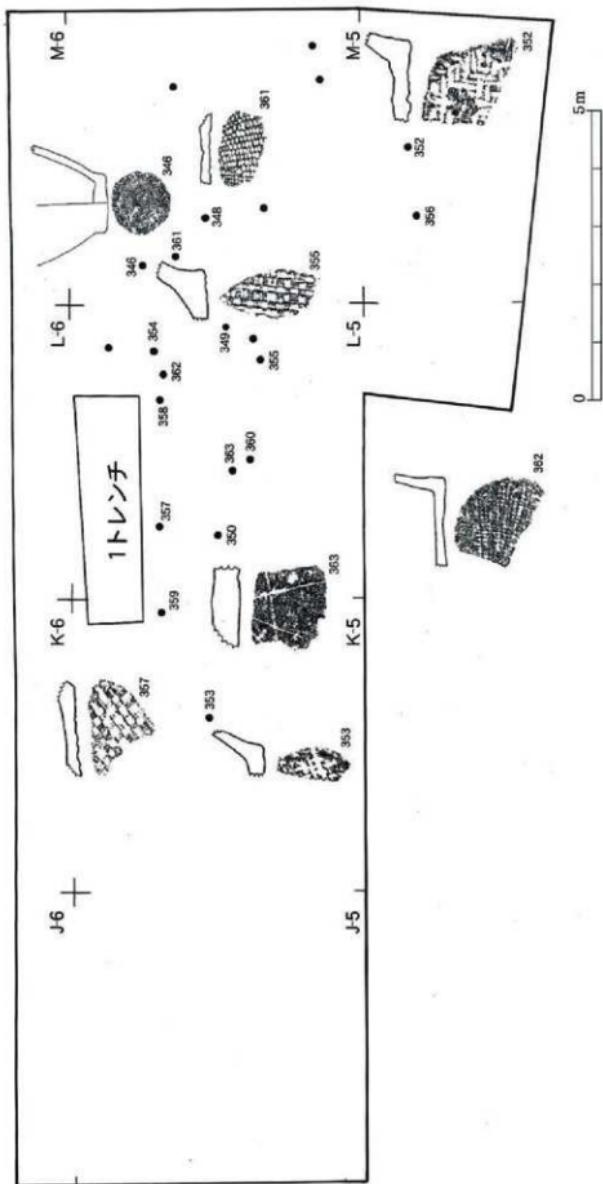


第16図 遺物出土状況（2）



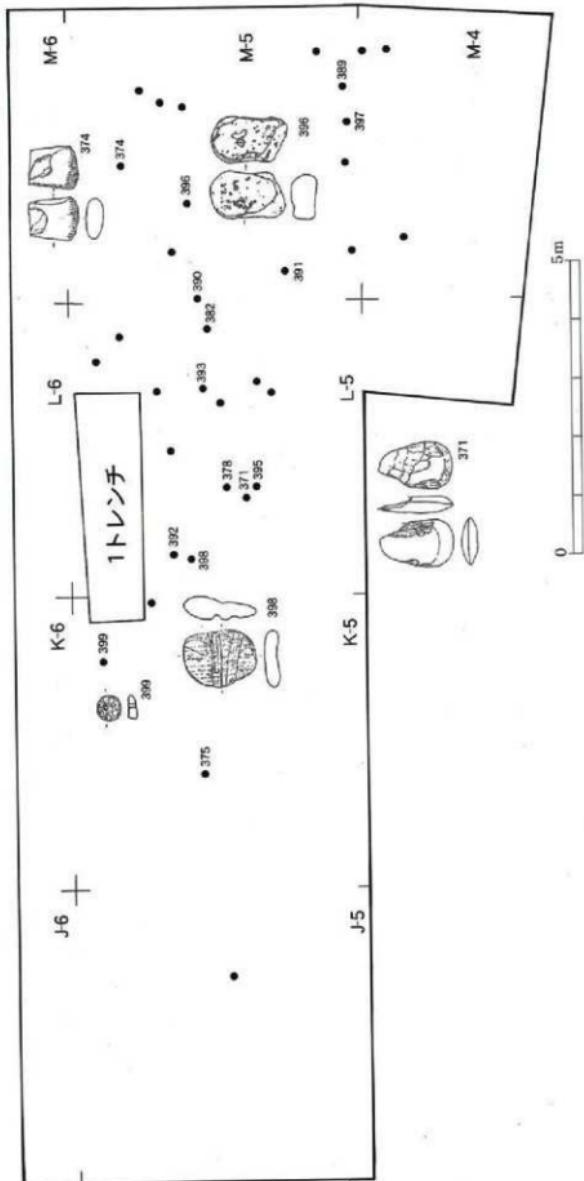


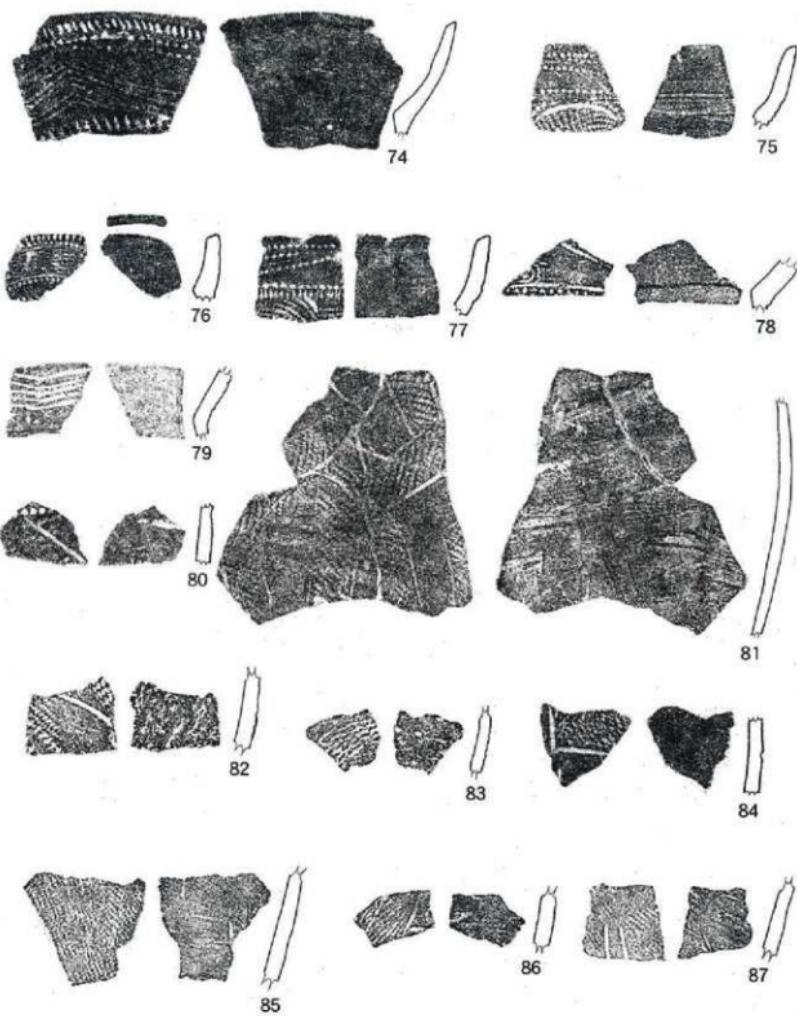
第17図 接合土器出土状況



第18図 底部出土状況

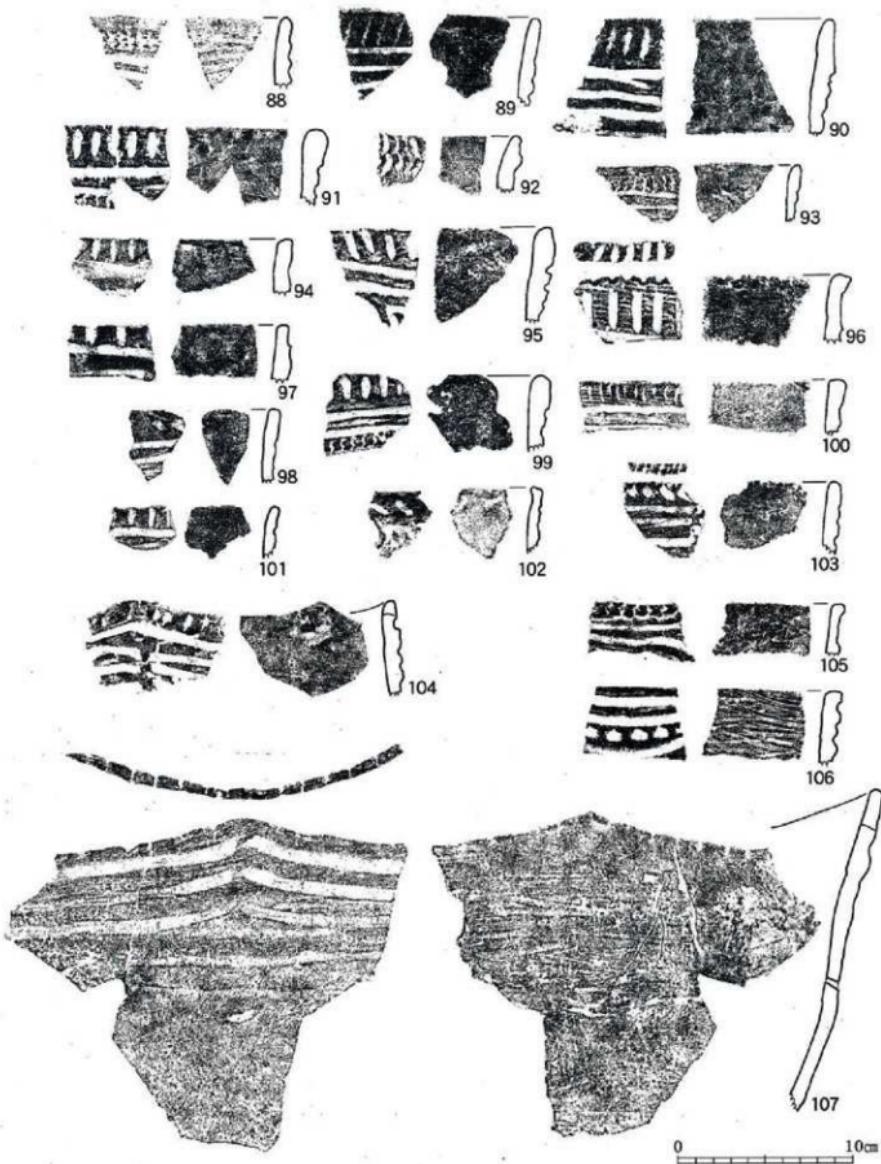
第19図 石器・鍾石製品出土状況





0 10cm

第20図 出土土器



第21図 出土土器

2類土器（第21図88～107）

口縁部外面に継ぎの沈線文や貝殻刺突文が施されるものである。107は、波状口縁を呈して口唇部にキザミ目を施す。その下位にはやや太目の沈線文が施されている。口縁部は、3条の太めの沈線文を平行に施している。内面調整は条痕後ナデである。

3類土器（第22～29図108～229）

口縁部が僅かに外反し、文様は主に2本1組の沈線で構成される。沈線文間が無文のものをa類、沈線文間に貝殻刺突文を施すものをb類、沈線文間に連点やキザミを施すものをc類、器面に貝殻条痕文が残るものをd類、と細分を行った。

108～186はa類である。

187～207は沈線文間に貝殻刺突文を施すもので、b類と細分したものである。187は沈線文間の貝殻刺突文が沈線と平行するように施されている。なお、口縁部に補修孔が見られその形状は円穿孔である。190・195・197も沈線に平行する貝殻刺突文である。これら以外のものは沈線文に対してほぼ直交するように施されれている。

208～218は沈線文間に連点やキザミ目を施すもので、c類に細分した。208・209は沈線文内に刺突文を施している。211は、口縁部内面に段を有して外反するものである。214～216は同一個体である可能性が高い。

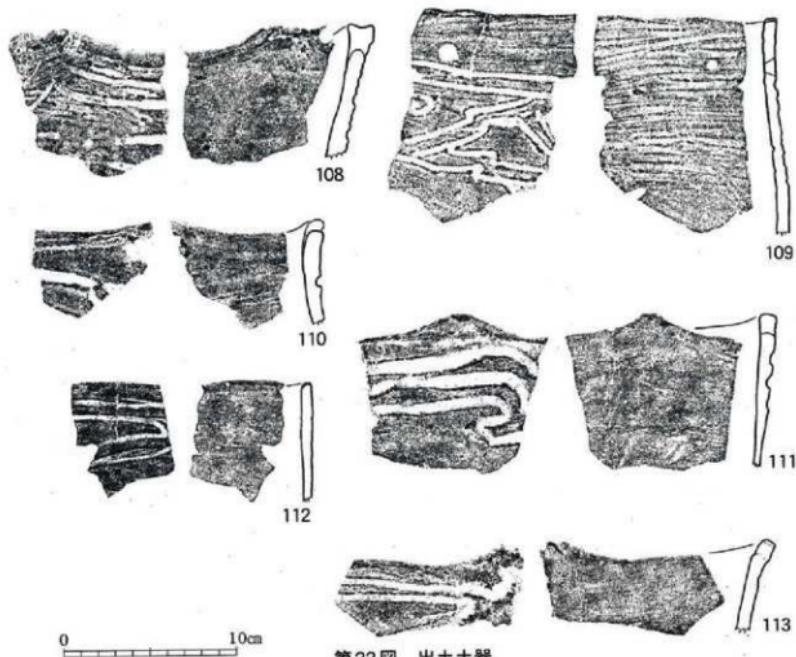
219～229は器面に貝殻条痕文が残るものでd類と細分した。224・228は口縁部が外反して比較的平坦な口唇部である。内外面共に貝殻条痕文が見られ外面では2本の平行する沈線により施されている。

4類土器（第30図230～253）

口縁部の断面観が三角形状を呈するものを一括した。この中には、正三角形状のものや間延びしたもの、あるいは、僅かに屈曲するものなどが見られる。239は口縁部内面に施文が見られる。246～248は太めの沈線文と爪形の刺突文が見られる。251は口縁部が強く外反して口縁部に貝殻刺突文を斜位に施し、その下に沈線文を4条施している。253は口縁部付近の破片である。口縁部と「く」の字状に屈曲する胴部の2ヶ所に貝殻刺突文が施されている。

5類土器（第31図254～272）

器面に磨消繩文を施すものを一括した。254・255は同一個体の可能性が高い。256～272は胴部片である。262・263は同一個体と思われるが、胎土や色調に関して他のものと異なっている。



第22図 出土土器

6類土器（第32～33図273～313）

1～5類に分類できなかったものを一括した。このなかでも、296～302に関しては、口縁部直下に刻目突帯文を施す一群である。273は、口縁部が外反して口唇部と口縁部にやや間延びした継位の山形押型文が見られる。275・276は口縁部に貝殻刺突文を施し、両者は同一個体と思われる。289～295は口唇部にキザミ目が見られるものである。303・304は口縁端部と口縁下部を肥厚させるものである。

7類土器（第34～35図314～345）

無文土器を一括した。口縁部が直行するものや外反するものなどバリエーションが豊富である。このなかでも345は口縁部が逆「く」の字状に屈曲するもので、入念な調整痕が観察される。

底部片（第36図346～368）

底部片は一括して掲載した。ほとんどの資料で圧痕が観察される。346～349・351～359は網代圧痕である。350・368はすだれ状の圧痕で、360～362はモジリ圧痕である。363～367は、木葉圧痕である。

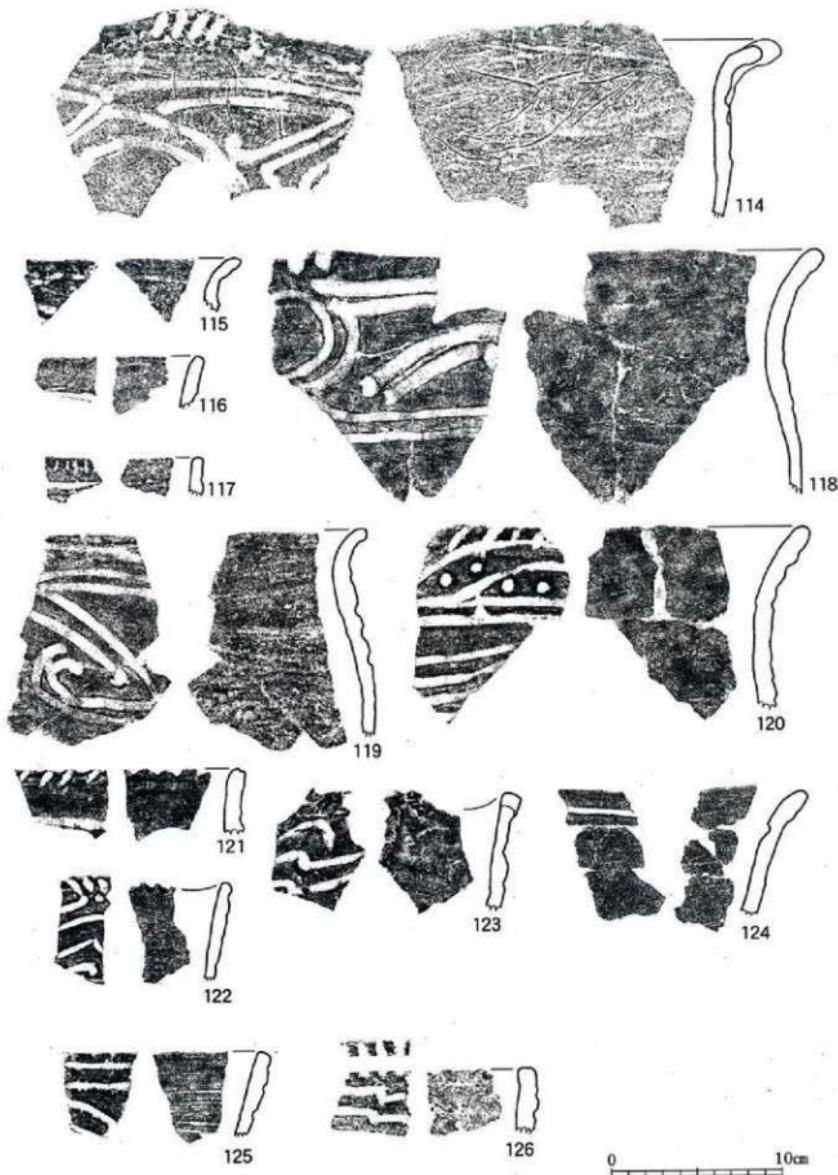
2号土坑内出土遺物（第37図369）

369は2号土坑内より出土した土器である。接合した結果、底部を欠くものの、ほぼ1個体分に成り得るものである。口縁部は外反し、直径が約28cmになる大型の土器で、内外面共に貝殻条痕文が見られ外面は2本の平行する沈線により施文されている。

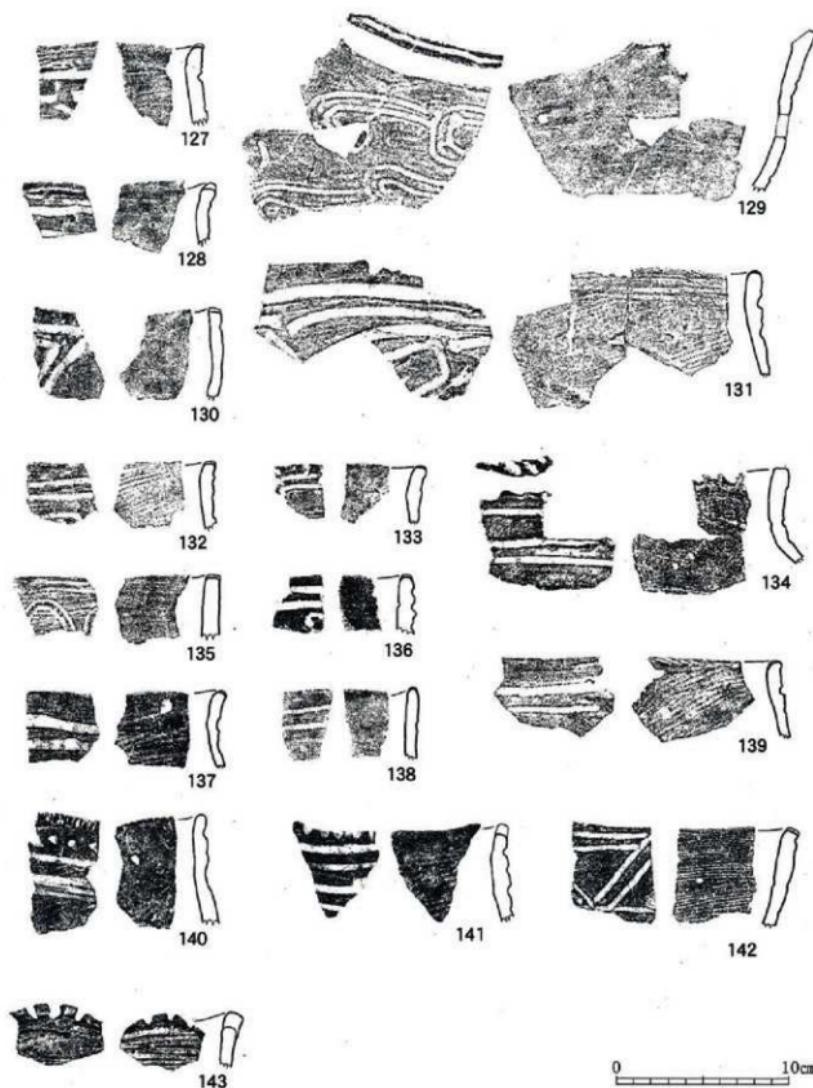
②石器類(第38～40図370～399)

縄文時代早期・後期の石器類が出土したが、主体は縄文時代後期のものが占める。

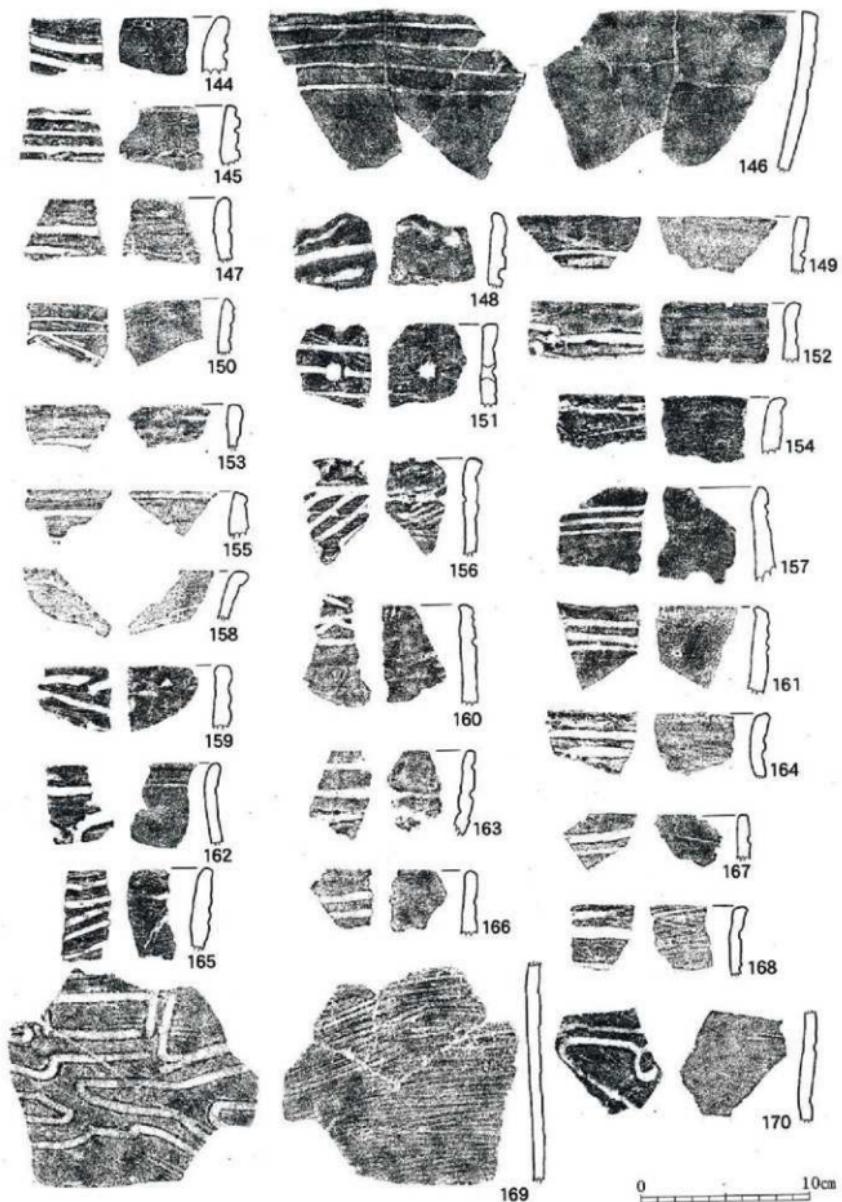
371～377は石斧であり、371・372・374は磨製石斧である。373は刃部が欠損している。375は打製のものである。376・377は石斧の基部であり、377は非常に小型のものである。378は石匙であり、石材は頁岩であるが磨耗が激しく、剥離等の痕跡は観察しにくい。380～393は磨石、敲石類である。392・393は磨石のみとして使用し他は磨り・敲き両方の痕跡が見られる。394は砥石で擦痕が両面ともに見られる。395は擦痕が見られ砥石と思われるが、両面ともに穿孔途中の痕跡が見られる。この穿孔は表面、裏面の位置がずれている。396～399は軽石製品である。396・397は使用により一部磨り減り、396は裏面の一部はかなり磨り減り、平らになっていく。398は表面に溝状の2本の深めの窪み、裏面にも溝状の浅い窪みを1本持つものである。399は穿孔を施しているものである。



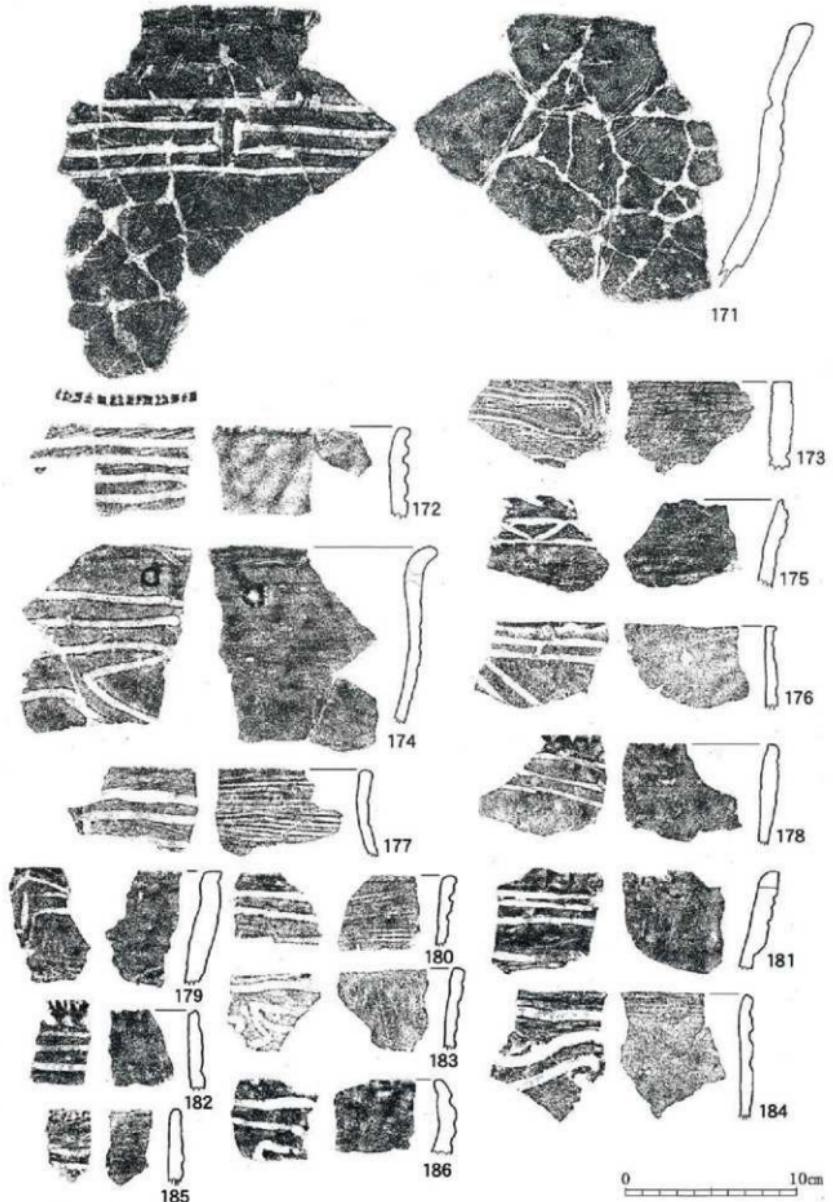
第23図 出土土器



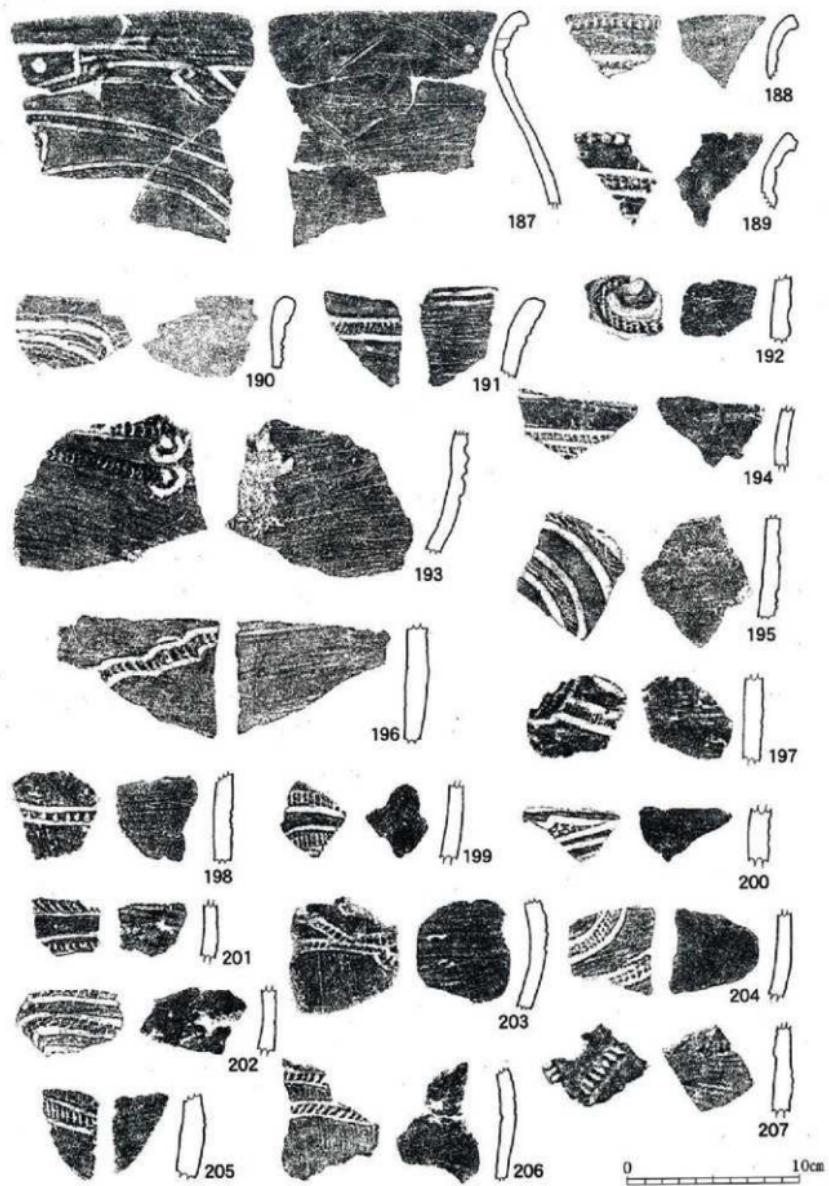
第24図 出土土器



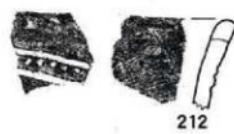
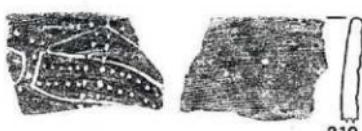
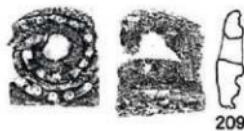
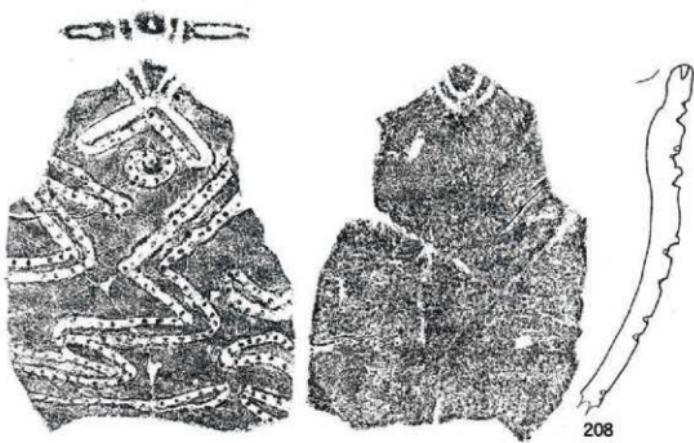
第25図 出土土器



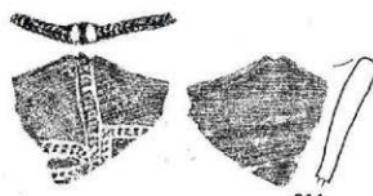
第26図 出土土器



第27図 出土土器



213



214



215



216



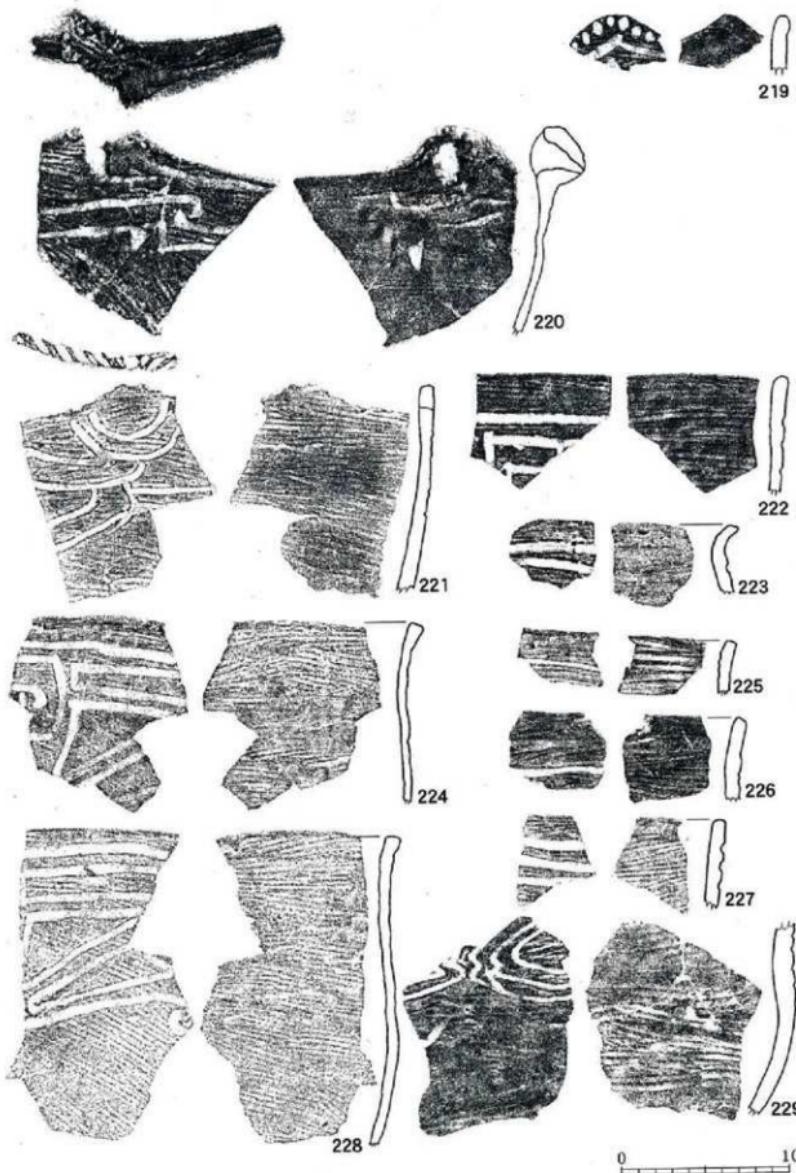
217



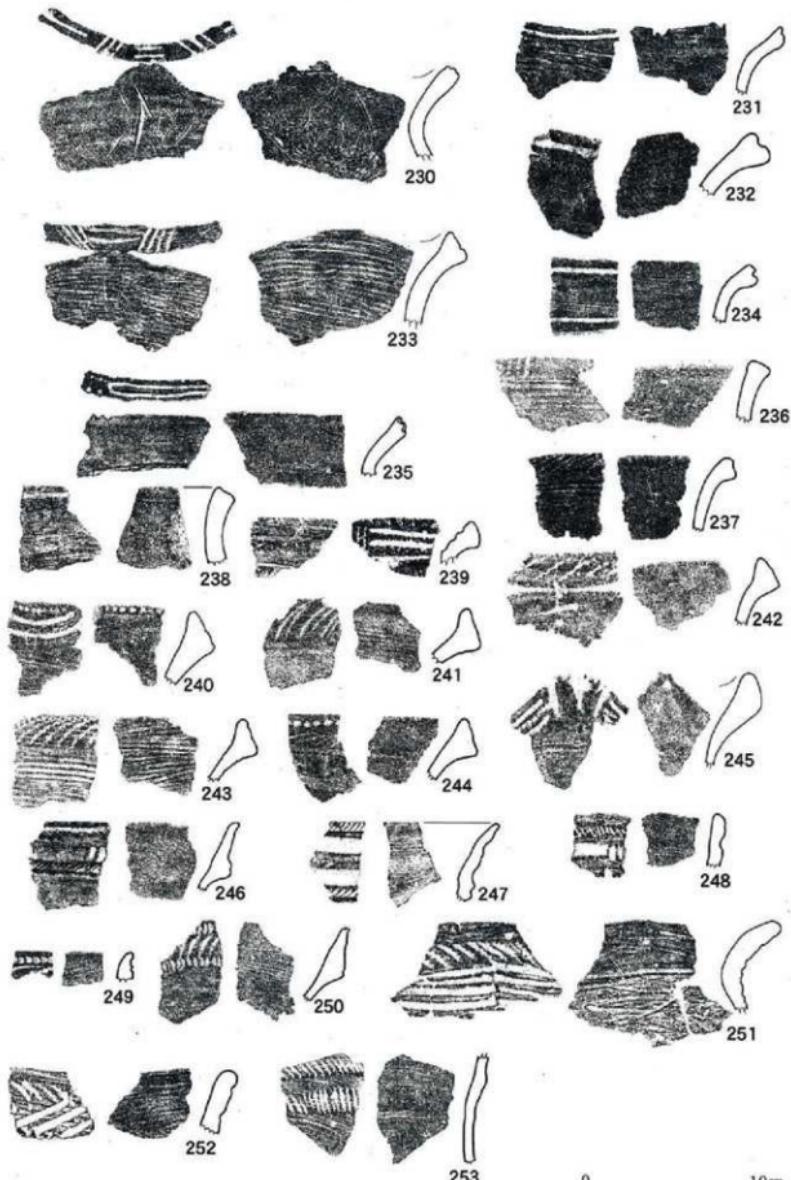
218

0 10cm

第28図 出土土器

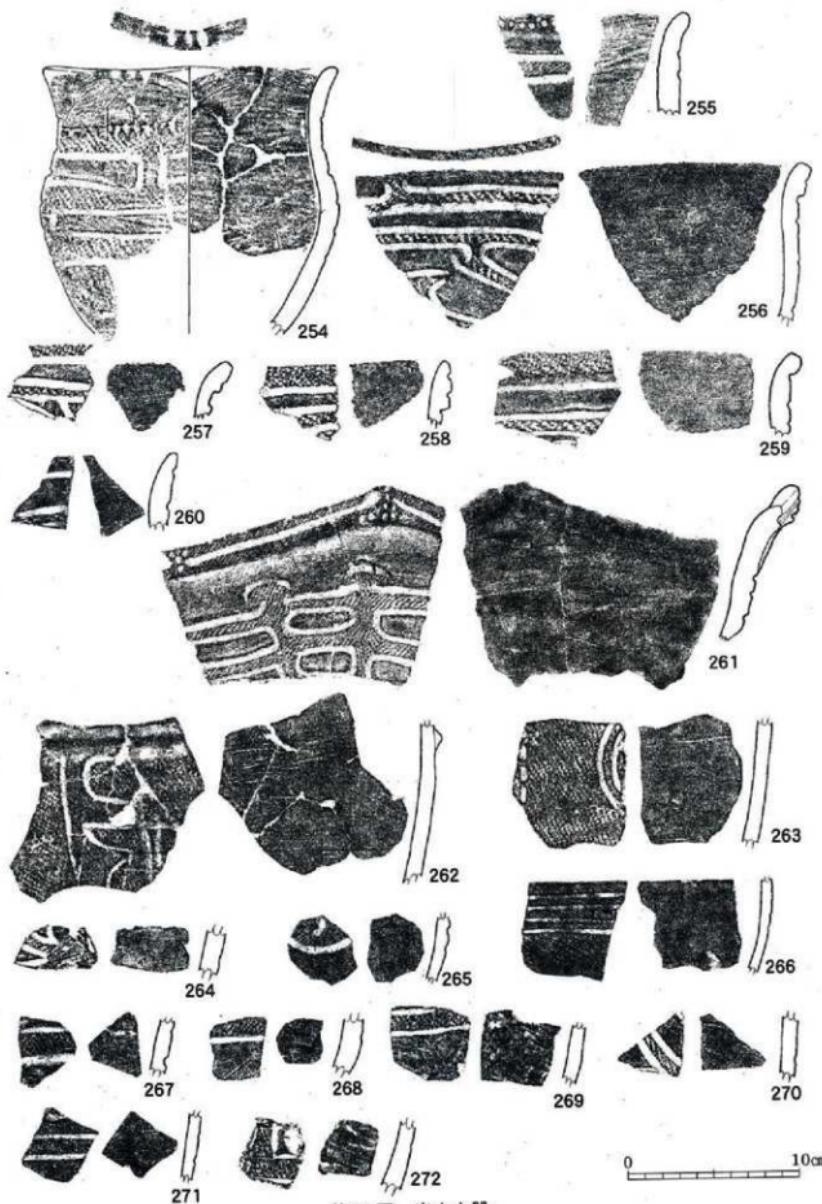


第29図 出土土器

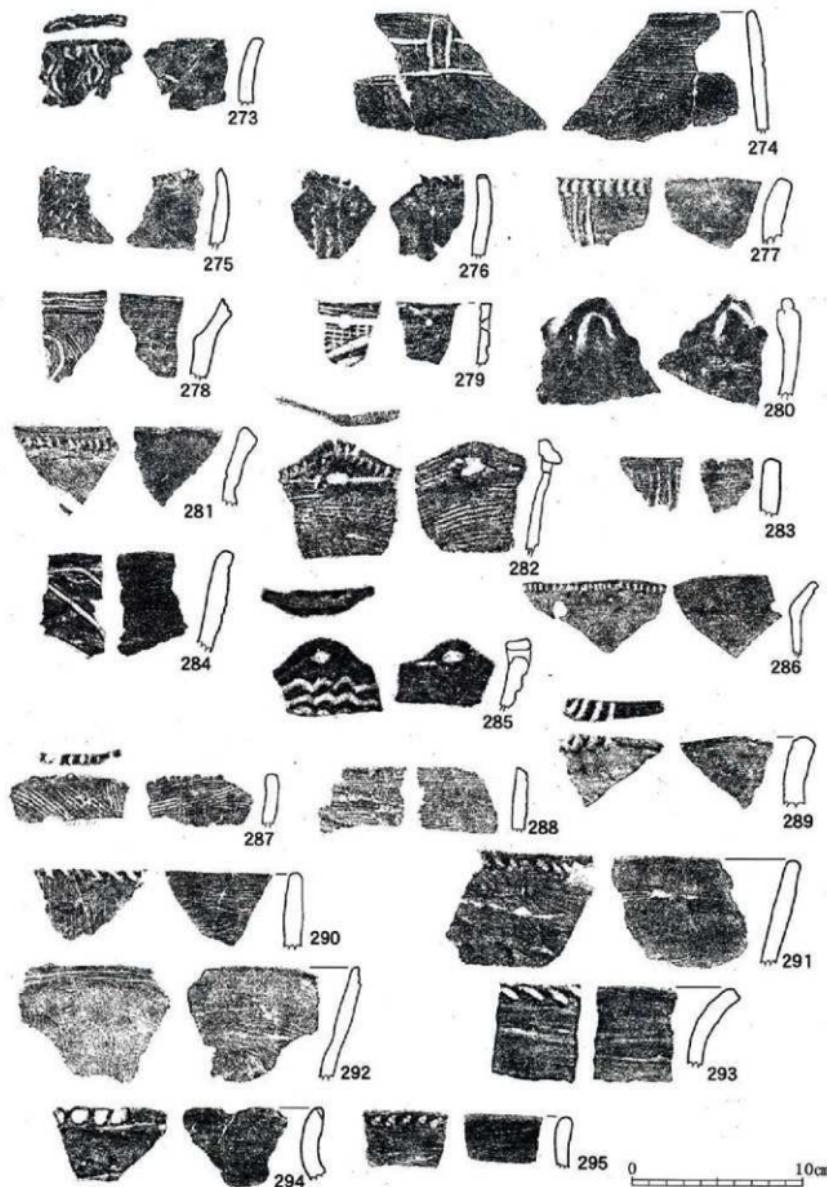


第30図 出土土器

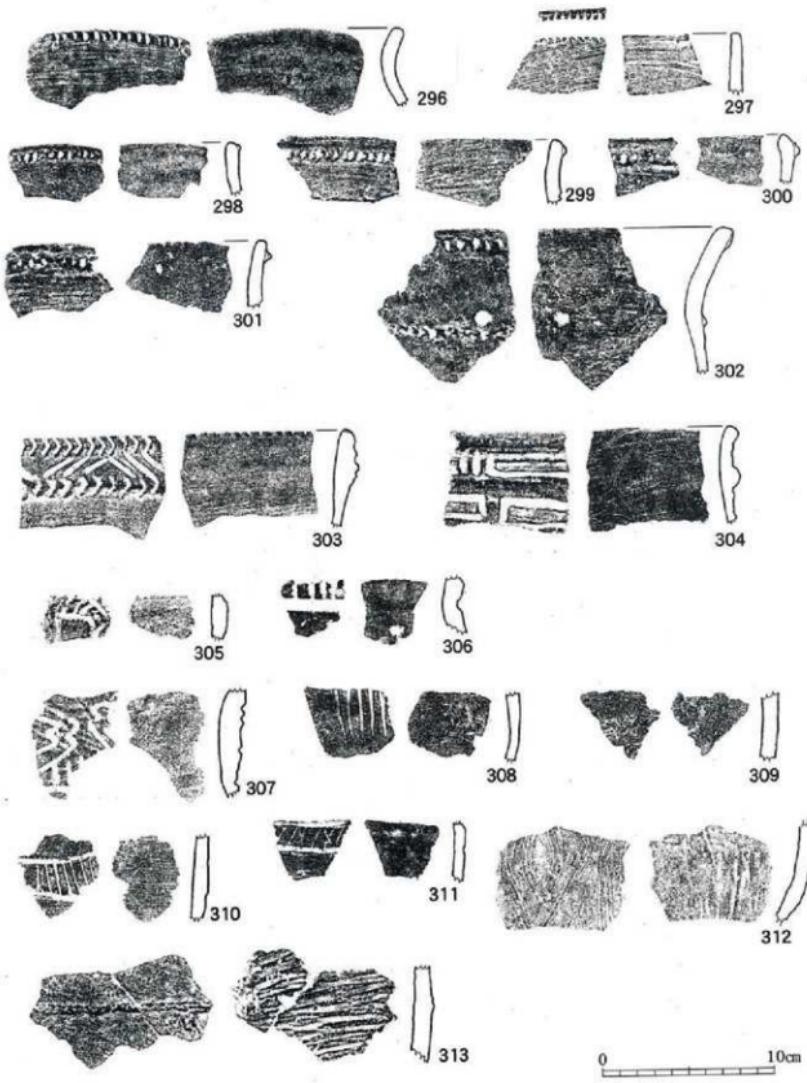
0 10cm



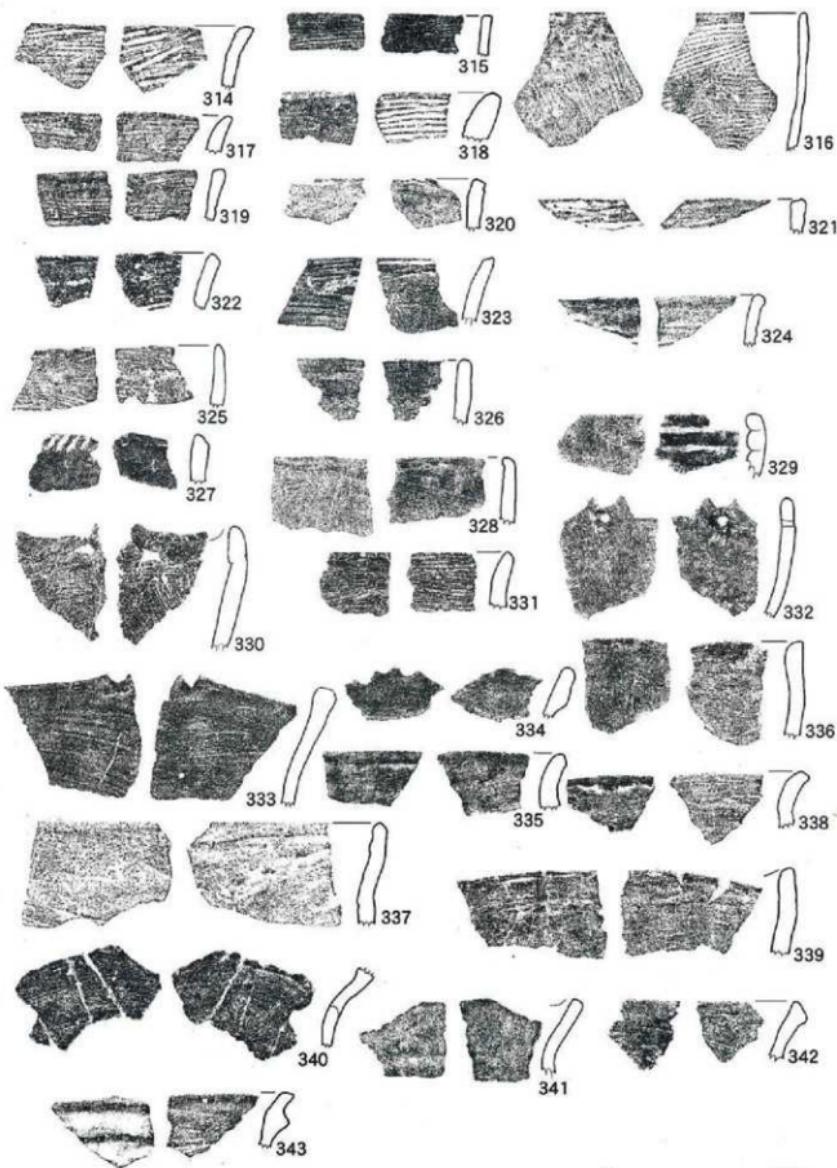
第31図 出土土器



第32図 出土土器

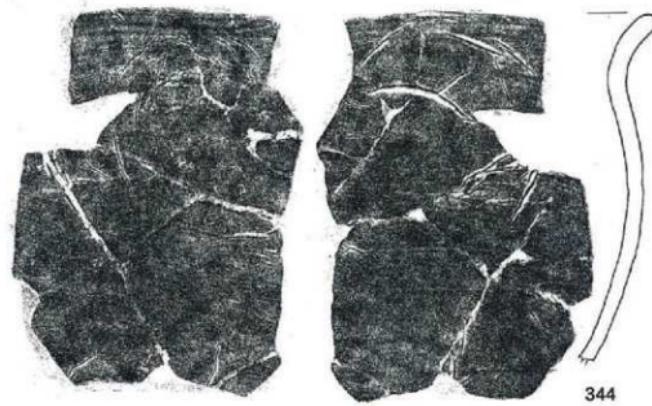


第33図 出土土器

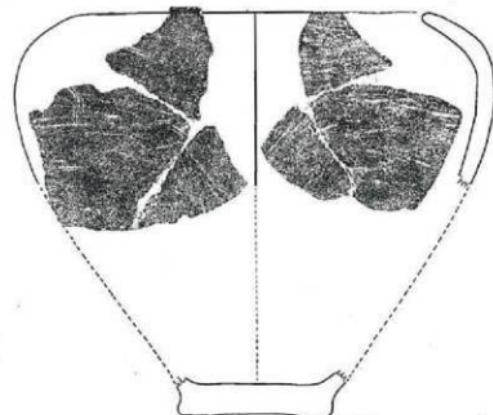


第34図 出土土器

0 10cm



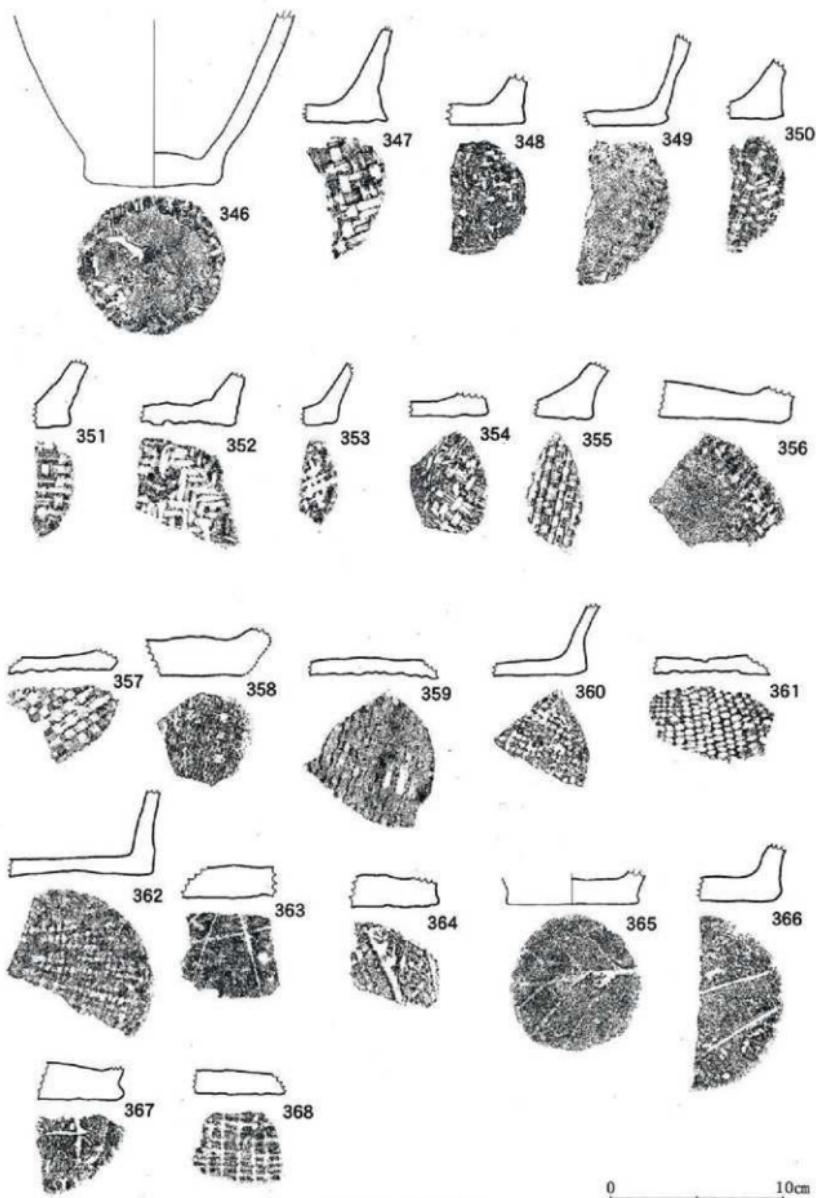
344



345

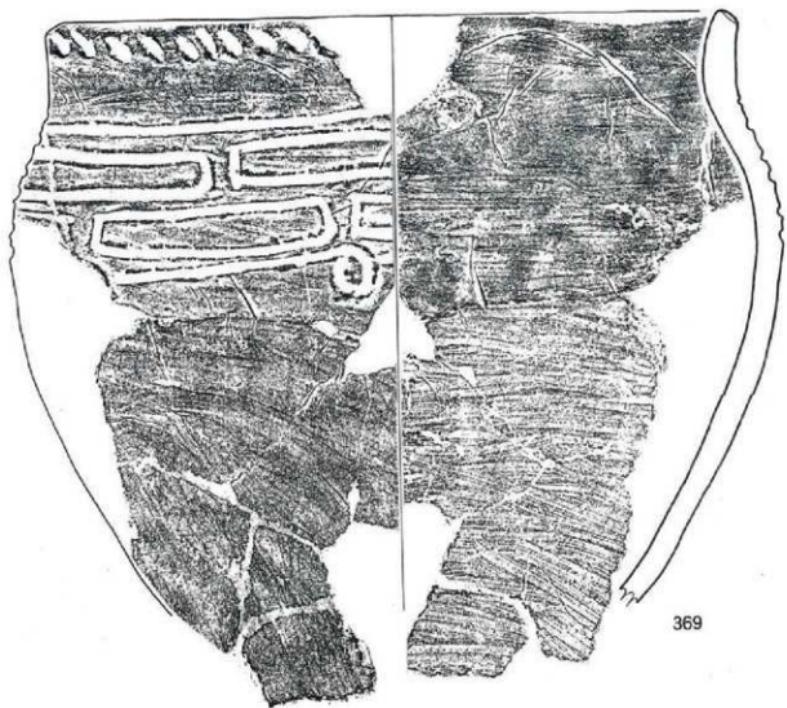
0 10cm

第35図 出土土器



0 10cm

第36図 出土土器



0 10cm

第37図 出土土器

第2表 土器観察表

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
10	1	752	III	1T	黑茶褐色	茶褐色	石英・長石・輝石	口縁部
	2	633	III	1T	灰黄茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・輝石	口縁部
	3	399	III	1T	灰黄茶褐色	乳茶褐色	石英・長石	口縁部
	4	421	III	1T	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	5	562	III	1T	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石	口縁部
	6	336	III	1T	灰茶褐色	茶褐色	石英・長石・輝石	口縁部
	7	428	III	1T	黑褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	8	338	III	1T	黑茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	9	一括	III	1T	黑褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	10	228	III	1T	灰黄茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	11	740	III	1T	明茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	
11	12	200	III	1T	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	
	13	212	III	1T	乳茶褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	
	14	700	III	1T	灰褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	15	601	III	1T	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	16	278	III	1T	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	17	204	III	1T	灰褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	18	504	III	1T	灰黑褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	19	536	III	1T	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	20	607	III	1T	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	21	260	III	1T	灰黑褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	22	360	III	1T	灰黑褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	23	287	III	1T	黑褐色	茶褐色	石英・長石・金雲母・霞	
12	24	294	III	1T	黑褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部付近か
	25	563	III	1T	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	
	26	535	III	1T	黑褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部付近か
	27	690	III	1T	灰茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	
	28	599	III	1T	灰茶褐色	灰黑茶褐色	石英・長石・金雲母	
12	29	238	III	1T	灰茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	
	30	555	III	1T	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	

第3表 土器觀察表

擗図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
12	31	625	III	1T	灰褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	
	32	477	III	1T	赤茶褐色	黑茶褐色	石英・長石	
	33	371	III	1T	灰黒褐色	灰黃黑褐色	石英・長石・砂粒	
	34	518	III	1T	灰茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	35	614	III	1T	灰茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	36	550	III	1T	灰黒褐色	灰褐色	石英・長石	
	37	194	III	1T	黒褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒	
	38	257	III	1T	灰茶褐色	黒褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	39	413	III	1T	赤茶褐色	黑茶褐色	石英・長石	
	40	404	III	1T	灰茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	
	41	590	III	1T	黒褐色	灰黃褐色	石英・長石	
	42	一括	III	1T	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	43	327	III	1T	黒茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	44	395	III	1T	灰黒褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	45	354	III	1T	黒褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒	
	46	489	III	1T	赤茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	47	264	III	1T	赤茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	48	178	III	1T	黒茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
13	49	549	III	1T	灰黒褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	50	499	III	1T	赤茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	51	352	III	1T	黒褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	52	646	III	1T	灰黃茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒	
	53	402	III	1T	黒褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	54	210	III	1T	灰黃茶褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	
	55	700	III	1T	灰黃褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	56	360	III	1T	赤茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	57	759	V	4T	赤茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	58	5	V	4T	黄茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	59	10	V	4T	黒茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	60	21/24	V	4T	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	1号土坑内・口縁部

第4表 土器觀察表

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
20	74	一括	V	A-1	灰黃茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	75	1096	V	C-2	灰黃茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	76	一括	V	B-2	茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	77	21	V	B-2	灰茶褐色	灰黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	78	305	V	B-1	灰茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・壤	
	79	1225	V	B-2	灰黑褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	
	80	1512	V	C-3	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・壤	
	81	34	V	C-3	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	
	82	90	V	B-2	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	83	1357	V	C-3	灰茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	
	84	65	V	D-3	茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	
	85	1842	V	M-4	乳茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	
	86	121	V	D-4	乳茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	
	87	173	V	D-4	乳茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	
21	88	1061	III	M-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒・金雲母	口縁部
	89	984	III	M-5	黑褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	90	1126	III	M-5	黑褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・壤・金雲母	口縁部
	91	1926	III	M-4	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	92	一括	III	L-5	黑茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	93	一括	III	K-5	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・金雲母	口縁部
	94	1732	III	M-4	黑茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒・壤	口縁部
	95	453	III	M-5	赤茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・壤・金雲母	口縁部
	96	998	III	M-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・壤・金雲母	口縁部
	97	1197	III	K-5	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	98	一括	III	K-5	灰黑褐色	黃茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	99	2032	III	M-5	乳茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	100	一括	III	M-5	灰茶褐色	黃茶褐色	石英・長石・砂粒・金雲母	口縁部
	101	一括	III	K-5	灰黑褐色	灰黃黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	102	1222	III	K-5	黑茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	103	一括	III	K-5	黑茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部

第5表 土器觀察表

擇因	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
21	104	1208	III	K-5	黑茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口緣部
	105	1341	III	K-5	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	106	1215	III	K-5	黑茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	107	1061	III	M-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
22	108	1083	III	L-5	黑褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・金雲母	口緣部
	109	752	III	J-5	乳茶褐色	灰黃褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	110	1042	III	M-5	灰黑褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	111	898 862	III	L-5	灰黑褐色	灰黃黑褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	112	486 1564 1744	III	L-5 M-5	赤茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	內面研磨 口緣部
	113	861	III	L-5	灰黃褐色	灰黃褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
23	114	468	III	K-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫・金雲母	口緣部
	115	1168	III	L-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫・金雲母	口緣部
	116	一括	III	M-5	灰黑褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	117	一括	III	M-5	灰黑茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	118	427	III	M-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	119	1479	III	K-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫・金雲母	口緣部
	120	1159 1698	III	L-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫・金雲母	口緣部
	121	1616	III	M-4	灰黑褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒・金雲母	
	122	1746	III	M-5	茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	123	1254	III	K-5	黑茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	124	1585	III	M-4	黑褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	125	1788	III	M-4	赤茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口緣部
	126	364	III	L-6	黑褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口緣部
24	127	559	III	L-6	乳茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	128	1877	III	M-5	黑茶褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
	129	959 1050 1129 1426	III	M-5	灰黑褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒・礫	口緣部
	130	1960	III	M-5	灰黑褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒・礫	口緣部

第6表 土器觀察表

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
24	131	528 1086	III	L-5	灰 黑 褐 色	灰 黑 褐 色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	132	一括	III	M-4	灰 茶 褐 色	黑 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	133	一括	III	J-5	茶 褐 色	赤 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	134	490	III	L-5	乳 茶 褐 色	灰 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	135	1079	III	L-5	黑 茶 褐 色	茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	136	一括	III	J-5	赤 茶 褐 色	赤 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	137	1057	III	M-5	灰 黃 黑 褐 色	灰 黃 黑 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	138	一括	III	L-5 L-6	赤 茶 褐 色	赤 茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 磨	口縁部
	139	985	III	M-5	黑 褐 色	灰 茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 磨	口縁部
	140	248	III	L-5	乳 黑 茶 褐 色	灰 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	141	一括	III	M-4	黑 褐 色	灰 茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 金雲母	口縁部
	142	2033	III	M-5	赤 茶 褐 色	黑 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	143	702	III	L-5	灰 黃 黑 褐 色	灰 黃 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
25	144	74	III	K-5	灰 黑 褐 色	灰 茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 磨・金雲母	口縁部
	145	1418	III	M-5	黑 褐 色	茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 磨	口縁部
	146	1734	III	L-5	灰 茶 褐 色	灰 黃 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	147	一括	III	K-5	乳 茶 褐 色	灰 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	148	319	III	L-5	黑 茶 褐 色	灰 黑 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 磨	口縁部
	149	1099	III	L-5	灰 茶 褐 色	灰 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	150	1132	III	M-5	乳 茶 褐 色	黑 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	151	1038	III	M-5	灰 黑 褐 色	灰 黃 茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 金雲母	口縁部
	152	319	III	L-5	黑 茶 褐 色	灰 黑 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	153	380	III	L-5	黑 褐 色	灰 黃 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部

第7表 土器觀察表

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
25	154	一括	III	K-5	灰茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	155	一括	III	K-5	灰黒褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	156	一括	III	K-5	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	157	1029	III	M-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	158	一括	III	K-5	黒褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	159	1259	III	K-5	乳茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	160	709	III	L-5	黒褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	161	1418	III	M-5	灰黒褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	162	474	III	K-5	乳黒茶褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	163	1994	III	M-4	黒褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	164	1633	III	L-5	灰黃黒褐色	灰黃褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	165	853	III	L-5	黒褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	166	一括	III	L-5	灰黃褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	167	一括	III	M-5	黒褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	168	1137	III	M-5	黒茶褐色	黒褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
26	169	1362 1363 1478	III	K-5	黒褐色	灰黃黒褐色	石英・長石・砂粒 ・礫	
	170	477	III	K-5	乳赤茶褐色	灰黒茶褐色	石英・長石・砂粒	
	171	420	III	M-5	黒茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	172	一括	III	M-5	灰黒茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	173	448	III	M-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	174	1660	III	L-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	175	1827	III	M-4	黒茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	176	1097	III	L-5	黒褐色	黒褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	177	1809	III	M-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	178	133	III	K-5	黒茶褐色	黒褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	179	828	III	L-5	灰茶褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	180	926	III	L-5	黒茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	181	1054	III	M-5	黒褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部

第8表 土器觀察表

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
26	182	1772	III	M-5	灰 黑 褐 色	灰 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	183	1064	III	M-5	黑 褐 色	黑 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	184	1689	III	L-5	黑 褐 色	黑 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	185	一括	III	M-5	灰 茶 褐 色	灰 黑 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	186	1897	III	M-5	灰 黑 褐 色	黑 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
27	187	470 508	III	K-5	乳 茶 褐 色	赤 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	188	1513	III	M-5	灰 黑 茶 褐 色	灰 黄 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	189	1726	III	M-4	灰 黃 黑 褐 色	灰 黑 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	190	1718	III	M-4	黑 褐 色	灰 黃 黑 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	191	1022	III	M-5	黑 茶 褐 色	黑 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	口縁部
	192	172	III	K-5	乳 茶 褐 色	赤 茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 磷・金雲母	
	193	1266	III	M-5	赤 茶 褐 色	黑 褐 色	石英・長石・砂粒	
	194	53	III	M-5	赤 茶 褐 色	赤 茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 金雲母	
	195	413	III	M-5	灰 黑 褐 色	灰 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	
	196	1555	III	M-5	灰 黑 褐 色	灰 黄 茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 磷・金雲母	
	197	1036	III	M-5	乳 茶 褐 色	灰 黑 褐 色	石英・長石・砂粒・壤	
	198	1907	III	M-4	乳 黑 茶 褐 色	灰 黑 褐 色	石英・長石・砂粒・壤	
	199	792	III	M-5	乳 茶 褐 色	灰 黄 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	
	200	1979	III	M-4	灰 黄 茶 褐 色	灰 黄 茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 磷・金雲母	
	201	216	III	L-5	灰 黑 褐 色	乳 茶 褐 色	石英・長石・砂粒・磷	
	202	1002	III	M-5	黑 茶 褐 色	黑 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	
	203	1527	III	M-5	黑 茶 褐 色	茶 褐 色	石英・長石・砂粒	
	204	1157	III	L-5	黑 褐 色	黑 茶 褐 色	石英・長石・砂粒 ・ 磷・金雲母	
	205	442	III	M-5	灰 黄 褐 色	乳 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	
	206	1850	III	M-4	茶 褐 色	黑 茶 褐 色	石英・長石・砂粒	
	207	958	III	M-5	灰 黄 黑 褐 色	灰 黄 褐 色	石英・長石・砂粒	

第9表 土器觀察表

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
28	208	427	III	M-5	黑茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	209	一括	III	M-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	210	1511	III	M-5	黑茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	211	314	III	L-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	212	840	III	L-5	黑茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	213	1106	III	L-5	黑茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	214	965	III	M-5	灰黑褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	215	891	III	L-5	灰黃茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	216	1266	III	M-5	黑茶褐色	黃茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	217	一括	III	M-5	黑茶褐色	黃茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
29	218	57	III	M-5	赤茶褐色	灰黃褐色	石英・長石・砂粒	
	219	1315	III	L-5	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	220	475	III	K-5	灰褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	221	907	III	M-5	黑茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	222	282	III	L-5	灰黑褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	223	1365	III	K-5	灰黃黑褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	224	1368 1479	III	K-5	灰黃茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫	口縁部
	225	754	III	J-5	黑茶褐色	灰黃黑褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	226	167	III	K-5	灰黑茶褐色	灰黃黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	227	568	III	L-5	灰黑褐色	灰黃黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	228	759 1368	III	L-5 K-5	灰黃褐色	灰黃黑褐色	石英・長石・砂粒 ・礫	口縁部
	229	956	III	M-5	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	
30	230	1543	III	L-5	赤茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	231	476	III	K-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	232	一括	III	M-5	赤茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	233	1524	III	M-5	黑茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	234	217	III	L-5	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	235	1386	III	L-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	236	1262	III	M-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部

第10表 土器觀察表

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
30	237	187	III	K-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	238	228	III	L-5	黒褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	239	一括	III	L-5	黒茶褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	240	209	III	L-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	241	2026	III	M-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	242	973	III	M-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	243	一括	III	L-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	244	一括	III	L-5	灰黒褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	245	2017	III	M-5	黒褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	246	1263	III	M-5	灰黒褐色	赤黄褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	247	501	III	K-5	黒茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	248	一括	III	K-5	赤茶褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	249	一括	III	K-5	黒褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	250	268	III	L-5	黒茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	251	250	III	L-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
31	252	1010	III	M-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	253	1028	III	M-5	黒茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	254	1622	III	M-4	黒茶褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	255	1664	III	L-5	黒茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	256	872	III	L-5	黒茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	257	343	III	L-5	黒茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	258	一括	III	K-5	黒茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	259	1952	III	M-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	内面研磨・口縁部
	260	716	III	L-6	灰黒褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	261	1621	III	M-5	灰黒茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	262	497	III	K-5	赤茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	
	263	1165	III	L-5	灰茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	
	264	612	III	M-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	
	265	846	III	L-5	黒茶褐色	黒褐色	石英・長石・砂粒	
	266	一括	III	L-5	灰黒褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒	
	267	一括	III	M-5	黒茶褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒	
	268	一括	III	L-5	乳茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	

第11表 土器觀察表

擗図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
31	269	1622	Ⅲ	M-4	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	270	533	Ⅲ	L-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	
	271	1583	Ⅲ	M-4	乳茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	272	1622	Ⅲ	M-4	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	
32	273	4	Ⅲ	B-1	赤茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	274	936	Ⅲ	L-5	黑茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	275	1474	Ⅲ	K-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	口縁部
	276	80	Ⅲ	K-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	口縁部
	277	925	Ⅲ	L-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	278	512	Ⅲ	K-5	赤茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	279	1823	Ⅲ	L-5	乳茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	280	一括	Ⅲ	K-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	281	1933	Ⅲ	M-4	黑茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	口縁部
	282	1761	Ⅲ	M-4	黑茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	283	一括	Ⅲ	M-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	284	2022	Ⅲ	M-5	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	285	1355	Ⅲ	K-5	黑褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	286	1570	Ⅲ	M-4	灰黑茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	287	1573	Ⅲ	M-4	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	288	1977	Ⅲ	M-4	黑茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫・金雲母	口縁部
	289	971	Ⅲ	L-5	灰黑褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	290	330	Ⅲ	L-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	291	1775	Ⅲ	M-5	黑茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	292	160	Ⅲ	K-5	黑茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	293	110	Ⅲ	K-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	294	一括	Ⅲ	M-5	灰黑褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫・金雲母	口縁部
	295	779	Ⅲ	M-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部

第12表 土器觀察表

拂図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
33	296	812	III	L-5	乳茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	297	一括	III	M-5	灰茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	298	一括	III	M-5	乳茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	299	1051	III	M-5	黑茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	300	727	III	K-5	黑茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	301	1510	III	M-5	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	口縁部
	302	1423	III	M-6	黑茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫・金雲母	口縁部
	303	426	III	M-5	乳茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	304	418	III	M-5	赤茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	305	1646	III	L-5	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	306	321	III	L-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	
	307	1672	III	L-5	灰黑茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	
	308	756	III	J-5	乳茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	309	1309	III	L-5	黑褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	
	310	一括	III	L-5	赤茶褐色	赤褐色	石英・長石・砂粒	
34	311	一括	III	L-5	灰黑褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	
	312	830	III	L-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	
	313	1576 1714	III	M-4 M-5	黑茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫・金雲母	
	314	178	III	K-5	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	315	一括	III	L-5 L-6	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	口縁部
	316	1387	III	L-5	灰黑褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	317	1248	III	K-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	318	1186	III	K-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	口縁部
	319	1172	III	K-5	灰赤茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部

第13表 土器觀察表

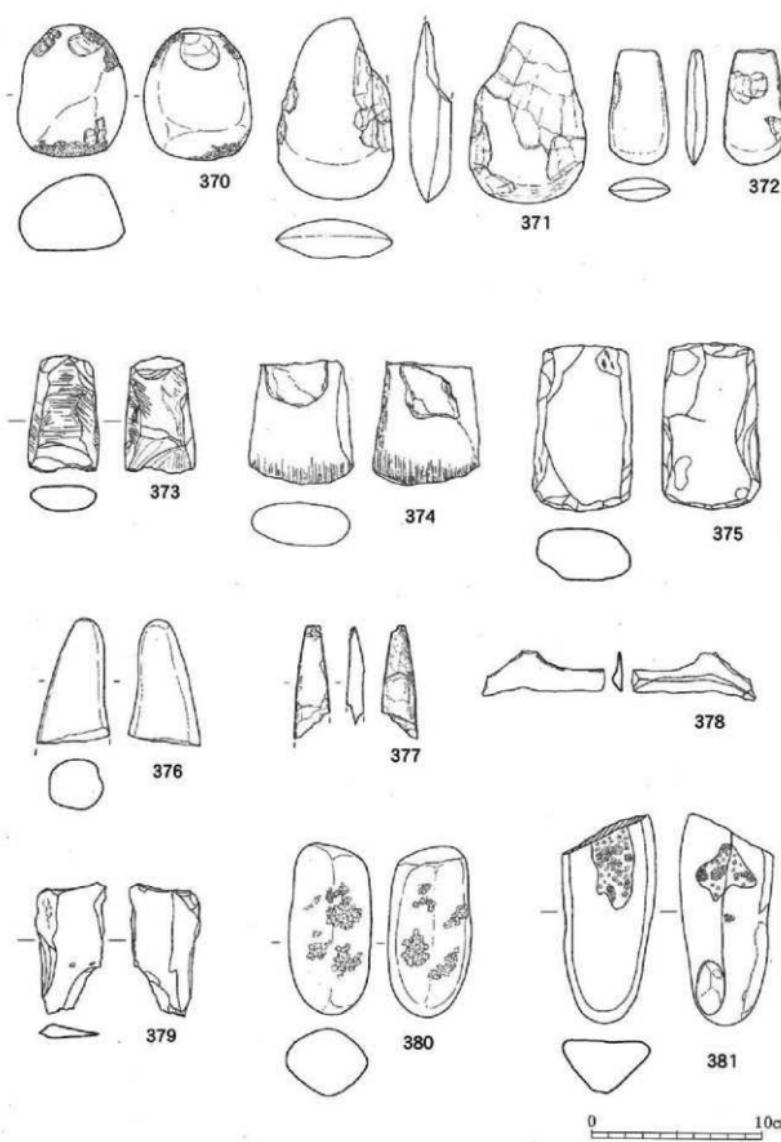
挿図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
34	320	1932	III	M-4	黑褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	口縁部
	321	1644	III	L-5	黑褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	322	797	III	L-5	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	323	1797	III	M-4	黑褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	324	1884	III	M-4	灰黑茶褐色	灰黃褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	325	一括	III	K-5 L-6	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	326	1155	III	L-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	口縁部
	327	一括	III	K-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	328	一括	III	M-5 M-6	黑褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	329	525	III	L-5	灰黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	口縁部
	330	315	III	L-5	黑褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	331	75	III	K-5	黑茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	内面研磨 口縁部
	332	1463	III	M-5	黑茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・鐵	口縁部
	333	518	III	K-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・鐵	口縁部
	334	174	III	K-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	335	795	III	M-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	336	1446	III	M-6	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	337	1101	III	M-5	乳茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	口縁部
	338	1030	III	M-5	黑茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	339	325 326	III	L-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	340	一括	III	J-5 J-6	灰茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	341	1161	III	L-5	灰黑茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	342	107	III	K-5	黑茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部

第14表 土器觀察表

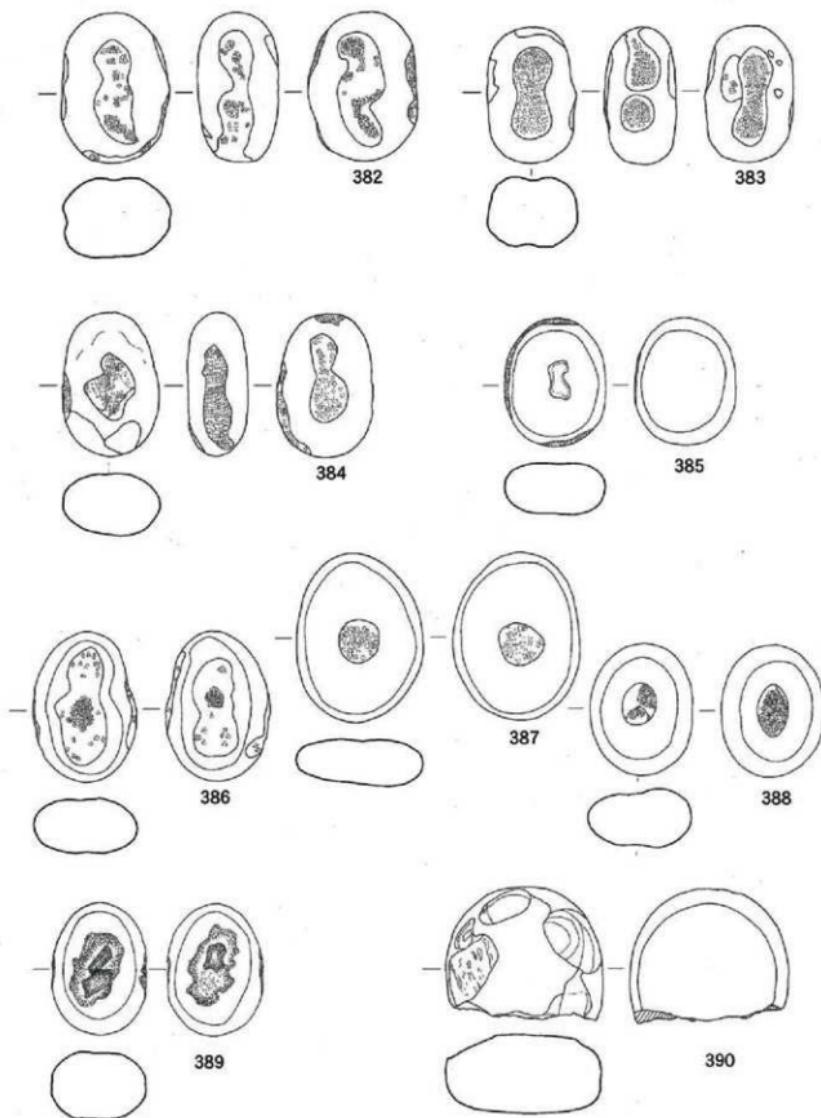
擲図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
34	343	1945	III	M-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口緣部
35	344	792	III	M-5	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	
		1516						
	345	1607	III	M-5	赤茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	
		1878						
		1894						
36	346	980	III	M-5	赤茶褐色	黑色	石英・長石・砂粒	
	347	1558	III	M-5	灰茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	
	348	993	III	M-5	黑茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	
	349	1085	III	L-5	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	350	488	III	L-5	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	
	351	一括	III	M-5 M-6	赤茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	
	352	1886	III	M-4	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	
	353	126	III	K-5	灰黑褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	
	354	885	III	L-5	灰黄茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	
	355	1089	III	L-5	灰黄茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫・金雲母	
	356	1985	III	M-4	灰褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫・金雲母	
	357	1667	III	L-5	黑茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒 ・金雲母	
	358	844	III	L-5	灰褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	
	359	170	III	K-5	灰黄黑褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	
	360	563	III	L-5	黑茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	
	361	1297	III	M-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	
	362	1167	III	L-5	灰黄茶褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	
	363	827	III	L-5	灰褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫・金雲母	
	364	一括	III	M-4	灰茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫・金雲母	

第15表 土器觀察表

拂図	番号	取上番号	層	出土区	色		胎土	備考
					外 面	内 面		
36	365	51	III	M-4	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	
	366	1786	III	M-5	黑茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒 ・礫・金雲母	
	367	一括	III	K-5	黑褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	368	357	III	L-6	灰黄褐色	灰黄黑褐色	石英・長石・砂粒	
37	369		III	2号 土坑	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	2号土坑内

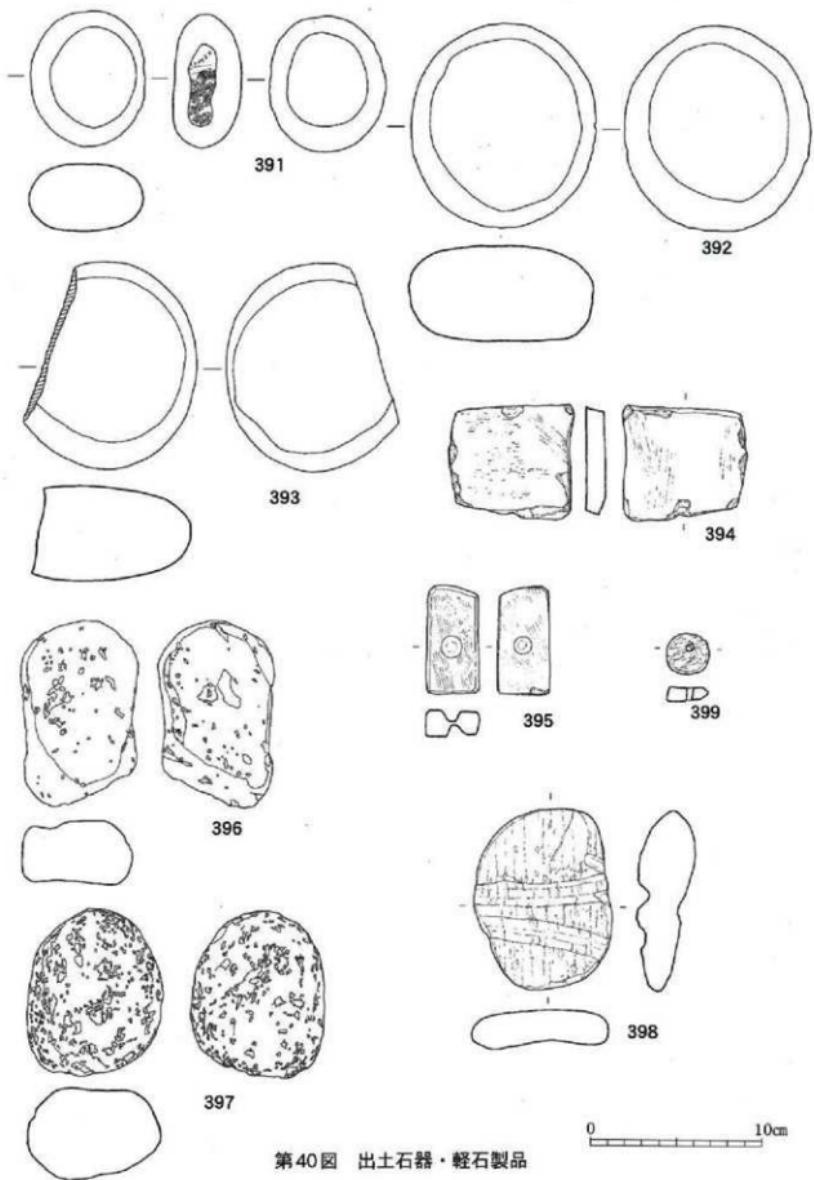


第38図 出土石器



第39図 出土石器

0 10cm



第40図 出土石器・軽石製品

第16表 石器觀察表

捕獲番号	遺物番号	器種	出土区	取上番号	出土層	最大長cm	最大幅cm	最大厚cm	重量g	石材	備考
13	61	剥片	1T	720	III	4.8	2.9	0.5	9	粘板岩	
	62	剥片	1T	305	III	6.4	4.0	1.1	40	砂岩	
	63	横刃形石器	1T	393	III	6.8	7.3	2.5	153	砂岩	
	64	礫器	1T	291	III	8.1	6.1	2.3	155	砂岩	
	65	剥片	1T	170	III	7.9	3.1	1.7	80	砂岩	
	66	磨製石斧基部	1T	337	III	6.9	5.6	3.5	191	頁岩	
14	67	磨石	1T	一括	III	8.5	5.3	3.5	268	砂岩	
	68	敲石	1T	419	III	7.2	5.1	4.3	206	砂岩	
	69	磨石・敲石	1T	224	III	11.1	8.0	6.0	798	砂岩	
	70	敲石	1T	一括	III	9.0	5.8	3.4	265	砂岩	
	71	砥石	1T	一括	III	5.1	4.5	1.9	50	砂岩	
	72	石皿	4T	1号 土坑内	V	40.5	41.7	10.6	23.8kg	砂岩	意図的に二つに割っている 湊遺跡表採品
38	73	細石核	湊遺跡	表採		2.2	2.8	1.1	10	硬質頁岩	
	370	石核	M-5	一括	III	7.6	6.2	4.4	304	硬質頁岩	
	371	磨製石斧	L-5	279	III	10.5	6.7	2.3	170	砂岩	
	372	磨製石斧	M-4	一括	III	6.6	3.7	1.3	38	砂岩	
	373	磨製石斧	旧4T	一括	V	6.7	3.8	1.5	67	砂岩	
	374	磨製石斧刃部	M-5	1452	III	7.1	6.1	2.4	235	砂岩	
39	375	打製石斧	K-5	115	III	9.8	5.7	3.1	300	砂岩	
	376	石斧基部	M-4	1920	III	7.1	3.8	2.9	118	砂岩	
	377	小型石斧基部	M-4	一括	III	6.2	1.9	0.9	15	頁岩	
	378	石匙	L-5	272	III	7.0	2.4	0.5	7.5	頁岩	
	379	スクレーパー	D-3	56	V	7.3	3.5	0.8	27	粘板岩	
	380	敲石	M-5	983	III	9.7	4.9	3.9	250	砂岩	
40	381	敲石	C-3	38	V	11.1	5.1	3.0	275	砂岩	
	382	磨石・敲石	L-5	1084	III	8.8	6.2	4.6	390	砂岩	
	383	磨石・敲石	M-4	1581	III	8.0	5.2	4.0	260	砂岩	
	384	磨石・敲石	M-5	1967	III	8.5	5.6	3.6	250	砂岩	
	385	磨石・敲石	M-5	一括	III	7.5	5.9	3.0	200	砂岩	
	386	磨石・敲石	2号土坑	29	III	8.8	6.1	3.1	243	砂岩	
40	387	磨石・敲石	C-3	40	V	10.0	7.4	2.7	270	砂岩	
	388	磨石・敲石	M-5	一括	III	7.7	6.0	3.5	233	砂岩	
	389	磨石・敲石	M-5	1808	III	7.6	5.5	4.0	255	砂岩	
	390	磨石・敲石	M-5	948	III	7.7	9.1	4.7	580	砂岩	
	391	磨石・敲石	M-5	1860	III	7.9	6.7	3.9	304	砂岩	
	392	磨石	L-5	1385	III	12.0	10.8	5.6	1140	砂岩	
40	393	磨石	L-5	1653	III	12.3	9.0	5.6	945	砂岩	
	394	砥石	L-5	124	III	6.6	7.0	1.2	105	砂岩	
	395	砥石	L-5	495	III	6.3	3.1	1.5	50	砂岩	
	396	輕石製品	M-5	1021	III	10.5	6.9	4.2	51	輕石	
	397	輕石製品	M-5	1767	III	9.8	7.9	5.5	133	輕石	
	398	輕石製品	L-5	806	III	10.4	8.1	1.8	62	輕石	
40	399	輕石製品	K-5	1250	III	2.4	2.6	0.9	2	輕石	

第IV章 調査のまとめ

調査を実施した寺之門遺跡は、確認調査50m²、緊急発掘調査150m²と狭小な調査面積であったが、土坑等の遺構が検出され、約2,000点の遺物が出土し、縄文時代早期・後期の遺跡であることが判明した。特に縄文時代後期の遺物が多量に出土し、今回調査を行った出土遺物の大部分を占め、出土土器には多数のバリエーションがある。

第1節 遺構

土坑3基・溝状遺構・ピット遺構が検出された。1号土坑は確認調査時に検出されたもので、検出した面の層位から縄文時代早期のものである。土坑内からは40cm×42cmの石皿が意図的に2つに割られた状態で出土し、また螺旋状に貼付突帯を施した土器片も出土した。この螺旋状に貼付突帯を施した土器片は他の調査地からの出土ではなく、この1号土坑内のみで出土している。石皿の埋納の状況や土器片から祭祀または墓の可能性を考えられる土坑である。

2号土坑は緊急発掘調査時に検出されたもので、検出面及び土坑内から出土した土器より、縄文時代後期のものと判断した。平面プランは85cm×80cm、深さ約25cmで土坑内からほぼ1個体に成り得る土器が出土した。(遺物番号369) 土器は押し潰された状態で出土し、前述したとおりほぼ1個体分出土したが、底部片は1点も出土しなかった。土器の出土状況から、祭祀的な土坑とも考えられる。

3号土坑は中世のもので、溝状遺構・ピットは検出面が削平・攪乱を受けており、溝内、ピット内からの出土遺物も無かつたため、時期を特定することは困難であり、その性格も不明である。

第2節 遺物

縄文時代早期・後期の遺物が出土した。縄文時代早期の遺物は主に調査区の南側、I~M・5区より出土し、後期の遺物は調査区の北側A~E・1~4区からの出土であり、早期・後期では遺物の分布が異なる。

早期の土器は1類土器としたものである。口縁部がラッパ状に外反し、区画内に撲糸文を施すもので、塞ノ神式土器である。この土器は種子島内の遺跡からの出土例が最も多い土器の一つである。

2類~7類土器としたものは、縄文時代後期のものである。2類は口縁部外面に沈線や貝殻刺突を施すものである。3類は口縁部が僅かに外反し、2本1組の沈線の文様を施したもので、更に沈線間の施文から、無文のものをa類、貝殻刺突文を施すものをb類、連点やキザミを施すものをc類、貝殻条痕文が残るものをd類と、細分を行った。この3類土器は出土土器の中でも最も出土量が多いものである。4類土器は口縁部の断面観が三角形形状を呈するものである。断面が正三角形状のもの、やや間延びしたもの、僅かに屈曲するものも含まれ施文は沈線文・爪形の刺突文・貝殻刺突文が見られ、貝殻刺突文は斜位に施されている。5類土器は器面に磨消繩文を施したものとした。6類土器は1類から5類の範疇に該当しないものとした。刻目突帯を施すもの、縦位の山形押型文を施すもの、口縁部に貝殻刺突文を施すもの、口唇部にキザミ目を施すものなどである。7類土器は

無文土器である。345は入念な調整痕が見られ口縁部が逆「く」の字状に大きく屈曲するものと思われ、このタイプは345のみの出土に留まる。底部片は大部分に圧痕が見られる。網代・すだれ状・モジリ・木葉などである。

後期の土器は出土レベルが極めて近く、また調査区内で遺物が集中して出土したため、今回の調査では各類の時期差を捉えることはできなかった。

石器は縄文時代早期、後期のものが出土したが、主体は縄文時代後期のものである。石斧、石匙、磨石・敲石類などである。石斧には小型の磨製石斧もあり、木材の加工に使用されたものであろう。395は砥石として使用したと思われるが、両面に穿孔途中の痕跡が見られる。砥石を2次的に利用しようとしたと思われるが、その用途は現時点では不明である。軽石製品も4点出土している。398は表面に溝状の2本の深めの窪み、裏面にも溝状の浅い1本の窪みが見られ、矢柄研磨としての用途も考えられるが、祭祀的な遺物にも見られ今後検討する必要があろう。399は円形で中心より少しずれた位置に穿孔を施している。民俗例から、釣りのウキとして使用した可能性がある。

今回の調査で縄文時代早期の遺跡は削平を受け、一部残存するに留まるが、後期の遺跡は調査区の西側に広がり保存状態は極めて良好であると思われる。

写真図版

A～E区遺物出土状況



ピット・溝状造構検出状況



発掘作業状況



圖版 2

土器出土狀況



土器出土狀況



輕石製品出土狀況



3号土坑検出状況



2号土坑検出状況



発掘作業状況

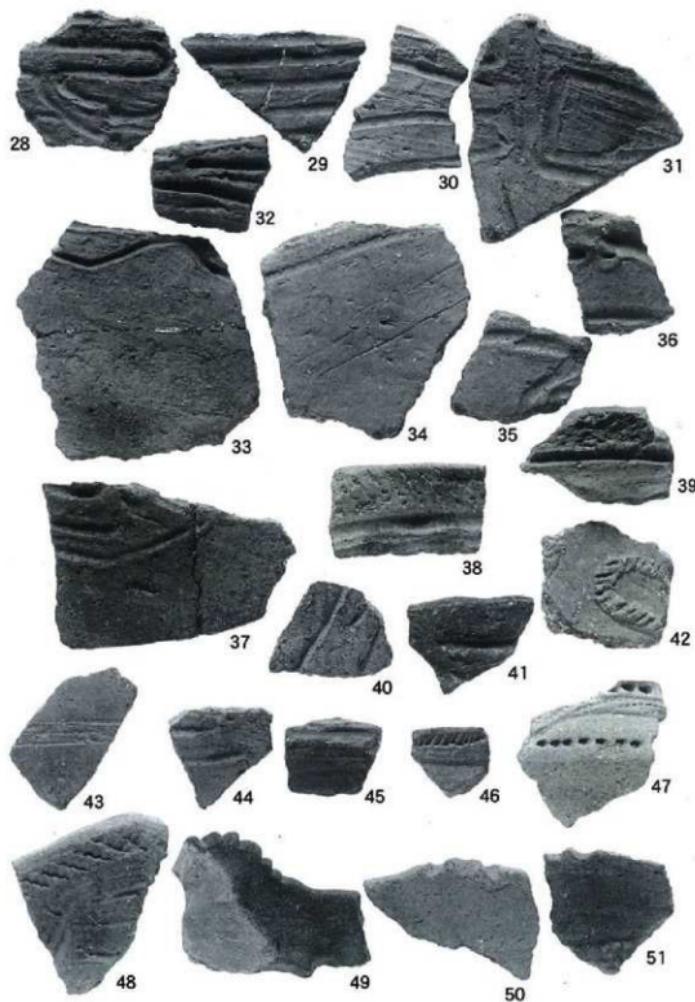




確認調査出土遺物（1）



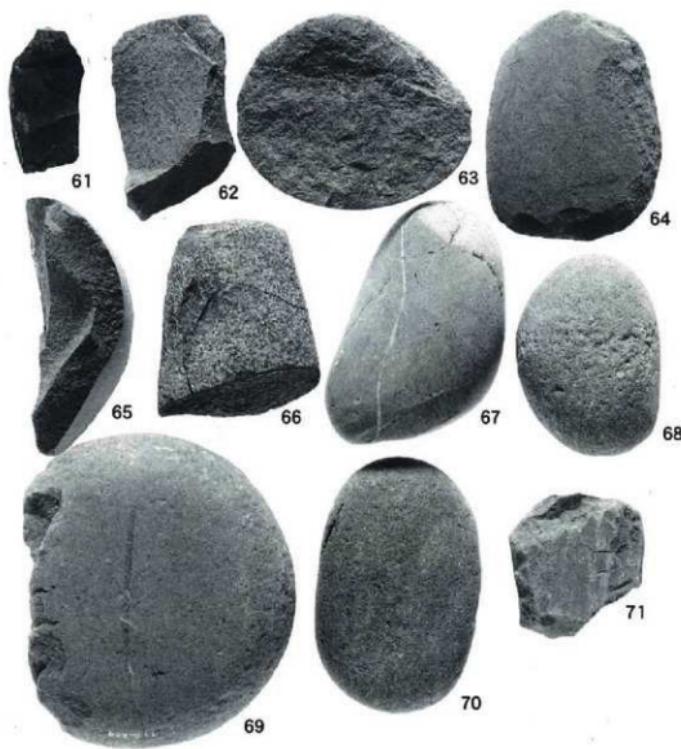
確認調査出土遺物（2）



確認調査出土遺物（3）



確認調査出土遺物 (4)



確認調査出土遺物（5）



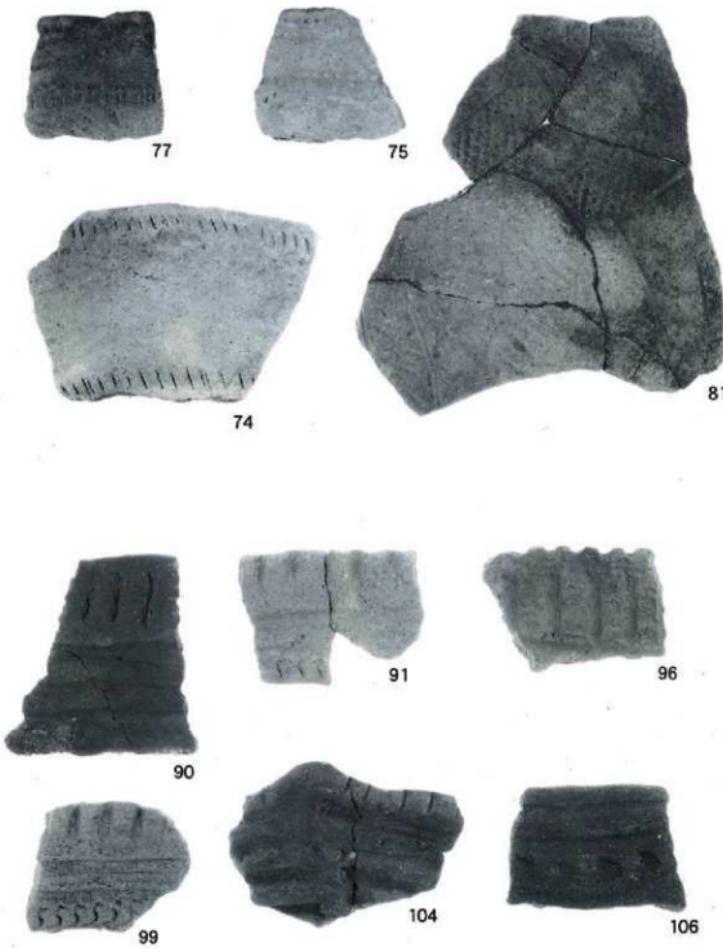
72

確認調査出土遺物（6）

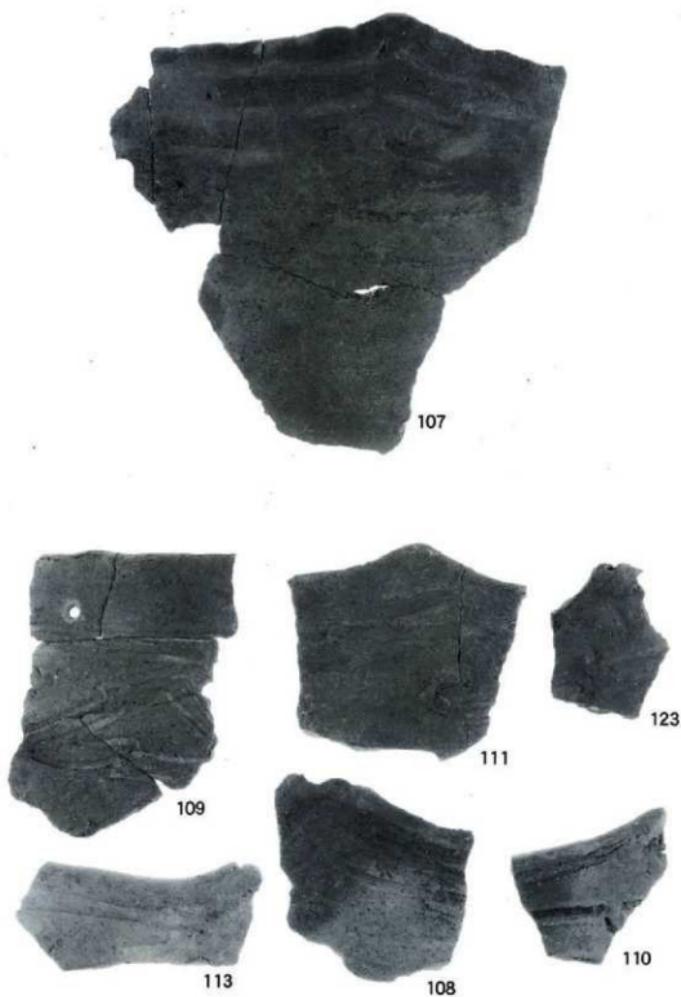


73

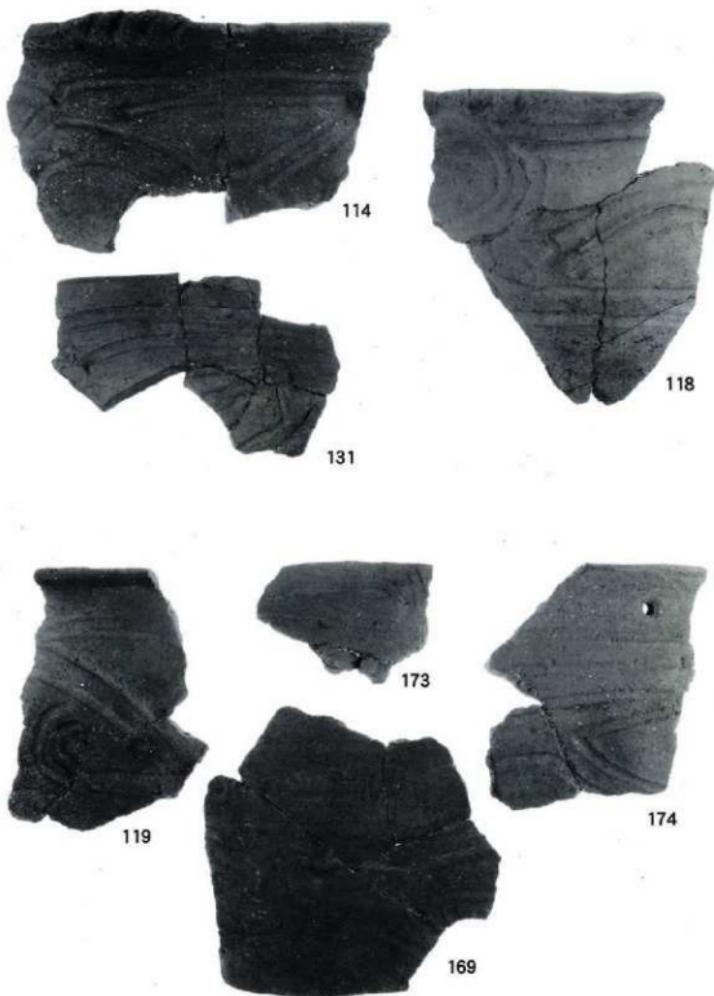
湊遺跡表採遺物



出土遺物（1）



出土遺物（2）



出土遺物（3）



171



209



195



187



204



193



198



203

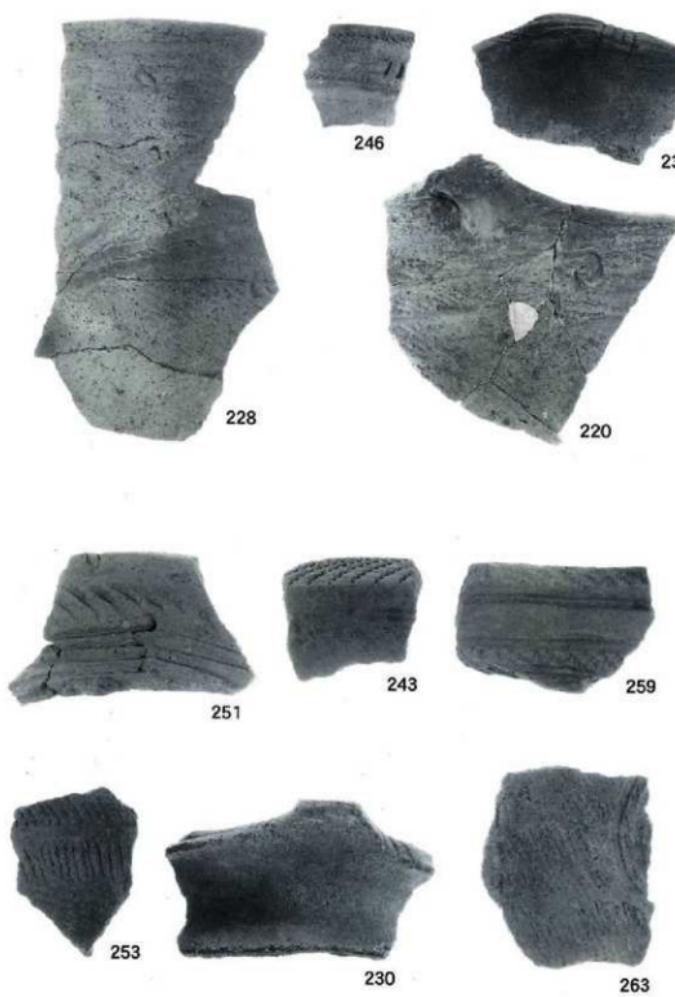


196

出土遺物 (4)



出土遺物 (5)



出土遺物（6）



254



256

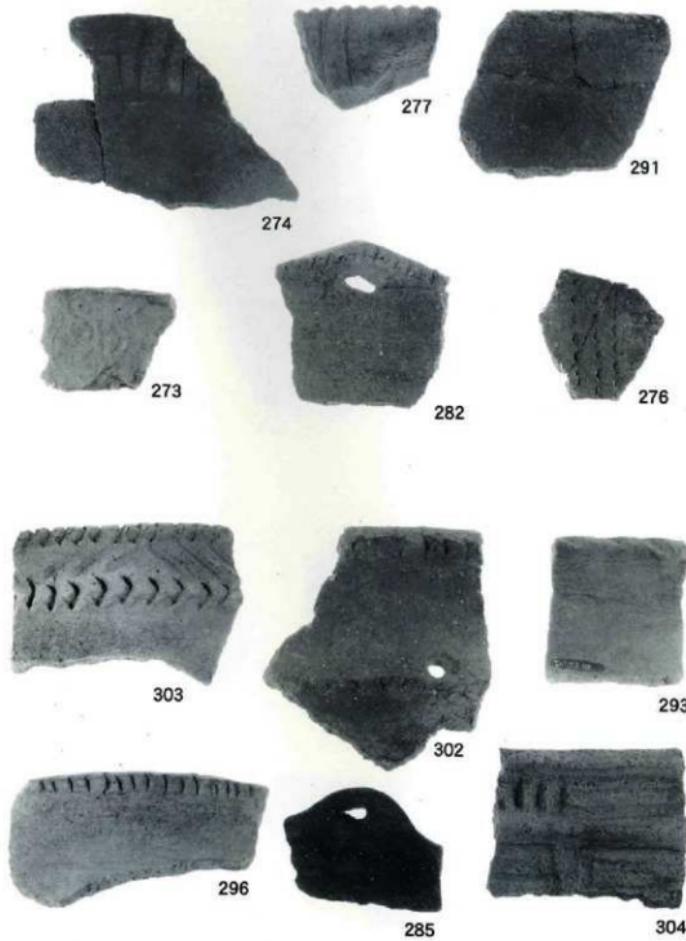


261



262

出土遺物 (7)



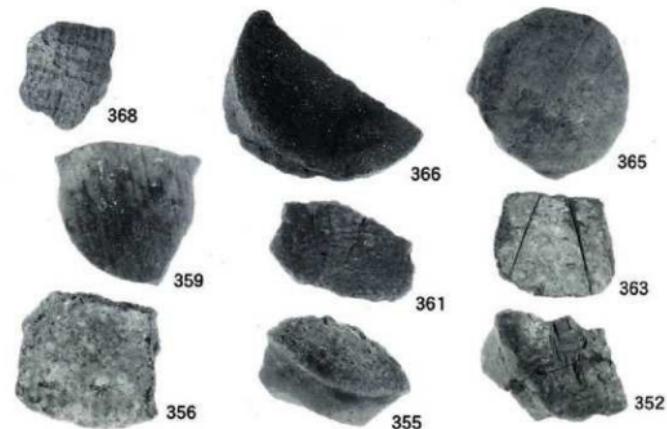
出土遺物 (8)



出土遺物 (9)

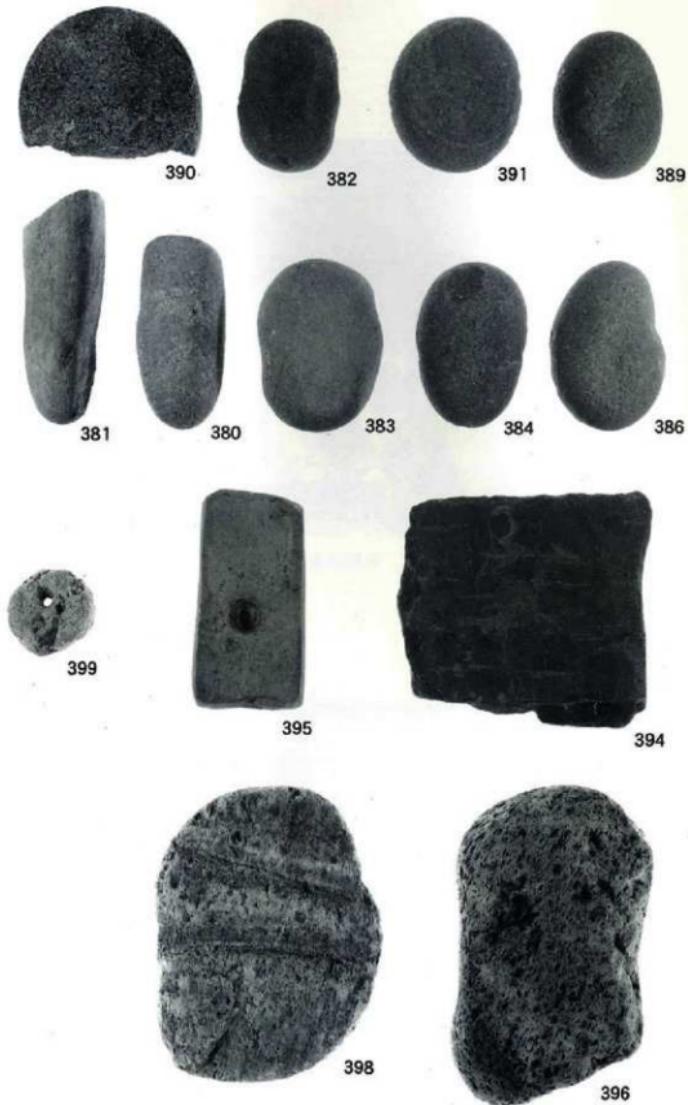


出土遺物 (10)



出土遺物 (11)

図版 21



出土遺物 (12)



平成7年度 発掘調査に携わった方々



平成9年度 発掘調査に携わった方々

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書（9）

寺之門遺跡

発行日 1998年3月

発行 西之表市教育委員会

〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612

TEL (09972) 2-1111

印刷 (有)種子島新生社印刷

〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表16516

TEL (09972) 2-0476